８００MHz 帯デジタルＭＣＡ移動無線システム

EK-6170A

携帯型無線装置

取扱説明書

簡易版

パナソニックソリューションシステム株式会社

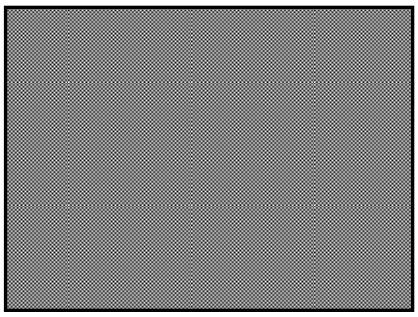
EK-6170A　初めてのご使用に際して

周波数を設定して、移動局情報をダウンロードしてください。操作手順は以下の通りです。

１．☎電源キーを長押しする

約２秒間押してください。

２．携帯機の画面が点灯する



３．周波数設定画面が表示される

右記画面が表示されます。

使用する周波数の番号を入力してください。

チャネル番号設定
チャネル番号を 入力して下さい （１～３９９）
決定

４．周波数番号を入力する

テンキーを使用して、数字を入力してください。入力できる範囲は１～３９９です。

誤って入力した際は、クリアキーを押して訂正してください。

チャネル番号設定
１００
ｸﾘｱ　決定

５．決定キーを押す

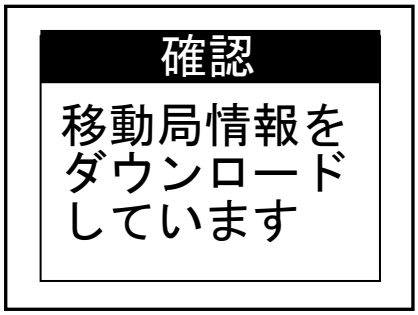
再起動後、右記画面が表示されます。

変更したい場合は、再度数字を入力してください。画面は、番号入力画面に戻ります。

チャネル番号設定
サーチ中：１００ 変更する場合は 再入力して下さい
決定

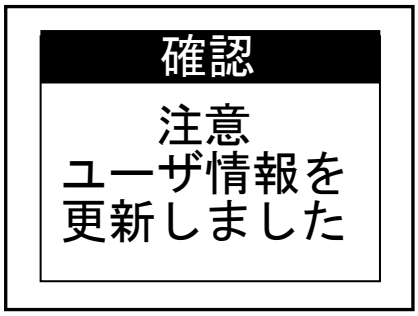
６．移動局情報の収集が開始される

右記画面が表示され、移動局情報のダウンロードが開始されます。



７．移動局情報の収集が完了する

右記画面が表示され、移動局情報のダウンロードが終了します。



ワンポイント

・移動局情報の収集完了以外にも各種のメッセージが表示される場合があります。その際は、メッセージの内容にしたがって操作を行ってください。メッセージに関する詳細は、「８．メッセージ一覧」を参照してください。
・操作を行っている場所の電界があまり良好ではない場合、使用可能な状態に移行するまで時間を要することがあります。その際は、場所を移動してから再度操作を行ってください。

目　　次

１．はじめに…… 1

２．安全上のご注意…… 2

３．各部の説明…… 4

４．ご使用になる前に…… 6

５．操作方法…… 7

５．１　電源を入れる…… 7
５．２　通信モードを切り替えて発信する…… 8
５．３　局番号帳を利用して発信する…… 10
５．４　全グループ通信を受ける…… 12
５．５　グループ通信を受ける…… 13
５．６　個別通信を受ける…… 14
５．７　全グループ一斉通信を受ける…… 15
５．８　システム一斉通信を受ける…… 16
５．９　受話音量を調節する…… 17
５.10　リダイヤルする…… 18
５.11　コールバックする…… 19
５.12　セレコールを送信する…… 20
５.13　セレコールを受信する…… 21
５.14　メールを送信する…… 22
５.15　かな漢字変換を行う…… 24
５.16　伝言メモを送信する…… 27
５.17　取消セレコールを送信する…… 29
５.18　受信メールの履歴を確認する…… 31
５.19　送信メールの履歴を確認する…… 33
５.20　伝言メモを受信する…… 35
５.21　伝言メモを再生する…… 36
５.22　通話メモを録音する…… 38
５.23　通話メモを再生する…… 39
５.24　通話メモを設定する…… 40
５.25　自ゾーンを切り替える…… 41
５.26　グループを設定する…… 43
５.27　状態を設定する…… 45
５.28　広域ゾーンを設定する…… 47
５.29　ユーザを切り替える…… 49

５.30　自局情報を確認する…… 51
５.31　コントラストを調整する…… 53
５.32　局番号帳の詳細情報を確認する…… 55
５.33　キーロックを設定する…… 57
５.34　警告表示を行う…… 58
５.35　障害表示を行う…… 58

６．桁数・件数一覧…… 59

７．鳴音一覧…… 60

８．メッセージ一覧…… 61

９．故障かな？と思われた時に…… 63

10. 用語解説…… 64

11. 機器構成…… 65

12. 主な仕様…… 65

1．はじめに

本書は、「８００ＭＨｚ帯デジタルＭＣＡ移動無線システム」における携帯型無線装置（以下、携帯機）の取扱方法について説明したものです。

携帯型無線装置は、従来の無線機を小型軽量化し、携帯電話のような利便性や高い操作性を実現したものです。

2．安全上のご注意

必ずお守りください

お使いになる方や他の方への危害、財産への損害を未然に防ぐため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

■表示内容を無視して誤った使い方をした時に生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。

⚠ 警告	この表示の欄は、「死亡または重傷等を負う可能性が想定される」内容です。
⚠ 注意	この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

■お守りいただく内容の種類を､次の絵表示で区分し、説明しています。

	このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。
	この絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

●携帯機の取り扱いについて

⚠ 警告

満員電車の中等混雑した場所では､付近で心臓ペースメーカーを装着している可能性があるので、電源を切る

本機からの電波がペースメーカーに影響を及ぼすことがあり、誤動作による事故の原因となります。

心臓ペースメーカー装着時は使用しない

本機からの電波がペースメーカーに影響を及ぼすことがあり、誤動作による事故の原因となります。

病院内や医用電気機器のある場所には持ち込まない

本機からの電波が医用電気機器に影響を及ぼすことがあり、誤動作による事故の原因となります。

自動ドア、火災報知機等の自動制御機器の近くで使用しない

本機からの電波が自動制御機器に影響を及ぼすことがあり、誤動作による事故の原因となります。

航空機内では電源を切る

運航の安全に支障をきたすおそれがあります。

車を運転しながら操作しない

交通事故の原因となります。

●運転者が操作する時は、車を安全な場所にとめてからご使用ください。

⚠ 注意

分解や改造をしない

けが等の原因となります。

指定以外の装置を接続しない

けが等の原因となることがあります。

幼児の手の届くところに置かない

けが等の原因となることがあります。

アンテナを取り付けて使用する

やけど等の原因となることがあります。

正しくご使用いただくために＜無線機の取り扱いについてのお願い＞

故障の原因となることがありますので必ずお守りください。

●テレビ、ラジオ、電話機等の電子機器のそばでのご使用は避けてください。雑音が入ることがあります。
●高精度部品を使用しておりますので、乱暴な取り扱いや落下等、強い衝撃を与えないようにしてください。
●掃除にシンナーやアルコール等を使わないでください。
●アンテナの先端をつかんで持ち歩かないでください。
●真夏の直射日光のあたる場所や、車のダッシュボードの上等、極端な高温になる場所には長時間置いたままにしないでください。
●多少の水しぶきがかかっても内部に水が浸入しにくい構造になっていますが、シャワーや浴室等で水を直接かけたり、水中に落としたりする行為は極力お避けください。

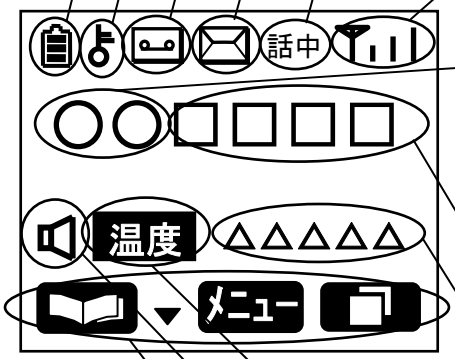
日常の保守やお手入れは無線機の性能、寿命を左右します。
使用前後に点検を行い、無線機の状態を毎日注意するようにしてください。

●本体が汚れた時は、乾いた布で拭いてください。アルコールやシンナーで拭くと、塗装が禿げたり、くもりが生じたりすることがあります。
●雨にぬれた後は、水滴を拭き取ってください。
●アンテナ、電池等が確実に接続されているかどうか確認してからご使用ください。
●十分に充電した電池パックを装着しても圏内にならず、プレストークスイッチやキーを押しても操作できない場合は、異常が発生している恐れがあります。その際は、いったん電源を切断し、再度電源を投入してください。
●充電器の端子や電池パックの端子が汚れた時は、乾いた布で拭いてください。

「故障かな？」と思われた際は、「９．故障かな？と思われた時に」をご一読ください。
万が一故障が発生した場合は、電源を切断し、電池パックを取り外して、保守業者にご相談ください。

3．各部の説明

1．ディスプレイ表示部



電池マーク

：現在の電池残量を表示（本数が多いほど残量が多い）

キーマーク・データマーク

：キーロック設定時 点灯

：キーロック解除時　消灯

：データ送信時 点灯（キーロック設定時は優先表示）

通話メモマーク

：通話メモ設定時 点灯

メールマーク

：メールまたは伝言メモ着信時 点灯（黒表示時は満杯）

無線回線状態

話中　：通話不可時 点灯
（圏外、他局送信時、回線混雑時及び発信規制中 他）

送信　：無線送信中 点灯

通話　：通話可能時 点灯

制限　：単一無線ゾーン時　点灯

グ×　：管外ゾーン在圏時　点灯

予約　：予約時　点灯

受信電界表示

：受信電波の強度を表示（本数が多いほど強い）
圏内時 点灯、圏外時 「圏外」点灯

通信モード表示

発信する通信モードを表示

全グ　：全グループモード時

グル　：グループモード時

個別　：個別モード時

電話　：電話モード時

一斉　：全グループ一斉モード時

番号表示

発信する相手局の個別番号やグループ番号を表示

通信時限表示

通話制限時間を表示（通信中はダウンカウント）
設定により、状態、自ゾーン等に表示変更が可能

温度警告

携帯機本体の温度上昇警告時に点灯

スピーカーマーク

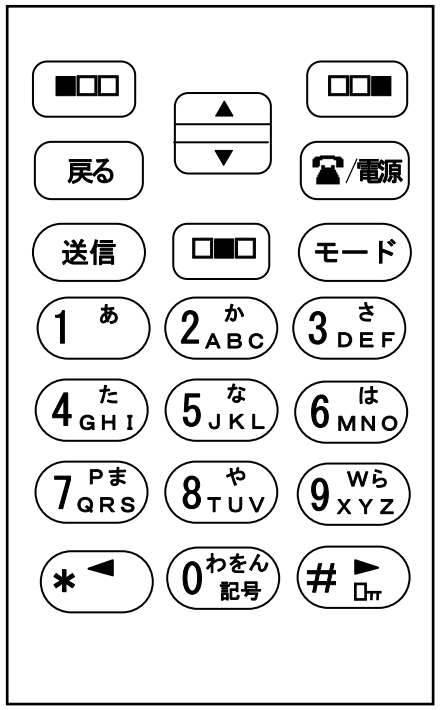
：無線機モード時 点灯

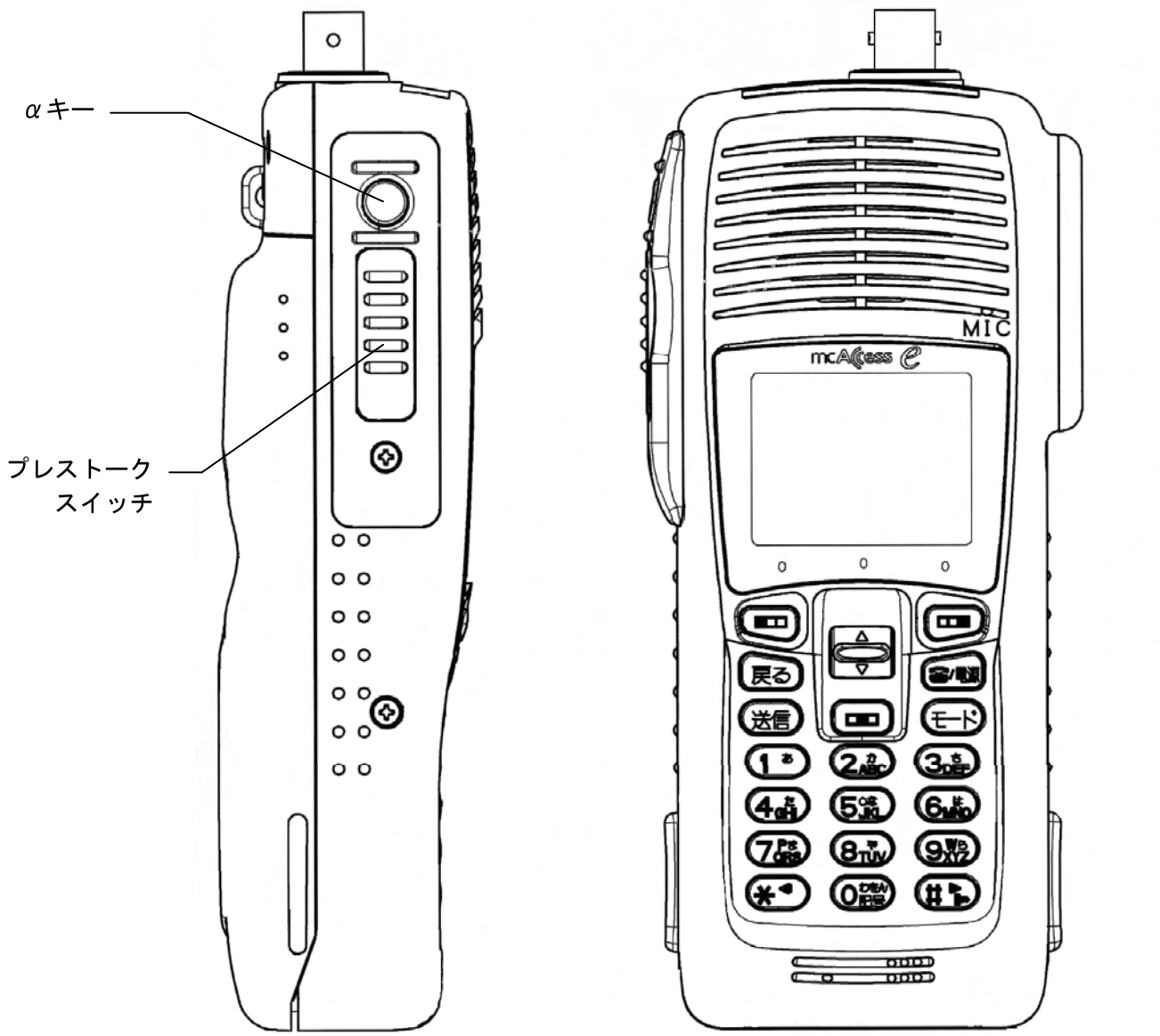
：電話機モード時単信通信中 点灯

ガイドキー表示

■□□、▼▲、□■□、□□■キー押下時の操作内容を表示
（各画面ごとに内容が異なるので、詳細は操作方法内で説明）

２．キー操作部





No.	*キー名称*	*主な機能*
1	■□□	画面左下に表示されるｶﾞｲﾄﾞｷｰの操作（局番号帳、ｸﾘｱ、録音、他）
2	▼、▲（矢印キー）	待ち受け時：登録内容の検索　通話時：受話音量の調節
3	□■□	画面中央に表示されるｶﾞｲﾄﾞｷｰの操作（ﾒﾆｭｰ、文字確定、他）
4	□□■	画面右下に表示されるｶﾞｲﾄﾞｷｰの操作（履歴、切替、他）
5	☎/電源	電源の投入及び切断（長押し）、通話終了
6	戻る	元画面への移行
7	送信	セレコール（取消含む）、メール、伝言メモの送信
8	モード	通信ﾓｰﾄﾞ（全ｸﾞﾙｰﾌﾟ／ｸﾞﾙｰﾌﾟ／個別／全ｸﾞﾙｰﾌﾟ一斉／電話）の切替
9	０～９(テンキー)	番号／文字の入力
10	＊／◄	＊入力、カーソル移動（左）
11	＃／►	＃入力、カーソル移動（右）、キーロック設定
12	αキー	バックライトを継続点灯　（左側面部／上部ﾎﾞﾀﾝ）
13	プレストークスイッチ	発呼及び（プレストーク通信時）音声送信（左側面部／下部ｽｲｯﾁ）

ワンポイント

・プレストークスイッチは、グループ通信等の片方向ずつ通話を行う単信通信時に使用します。通話を行う場合はスイッチを押しながら話し、聞く場合はスイッチを離しておくと音声が聞けます。（プレストーク通信）

４．ご使用になる前に

携帯機をご使用になる前に、以下の内容を確認してください。

１．アンテナを取り付ける：下記のように根元までしっかりと付けて使用してください。

２．電池パックを確認する：電池が本体にきちんと装着されているかを確認してください。
詳細は、別添の「電池パック 取扱説明書」を参照してください。

３．充電状態を確認する　：電池がきちんと充電されているかを確認してください。
詳細は、別添の「ＡＣ急速充電器 取扱説明書」を参照してください。

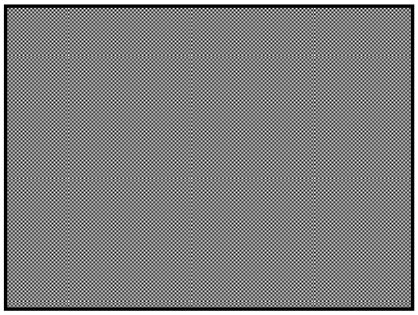
5．操作方法

1	電源を入れる	携帯機を起動します。

1．☎電源キーを長押しする

約２秒間押してください。

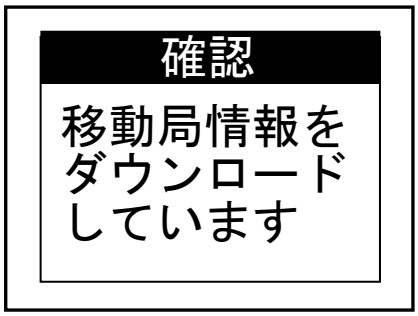
2．携帯機の画面が点灯する



3．移動局情報が登録される

右記画面が表示され、移動局情報がダウンロードされます。

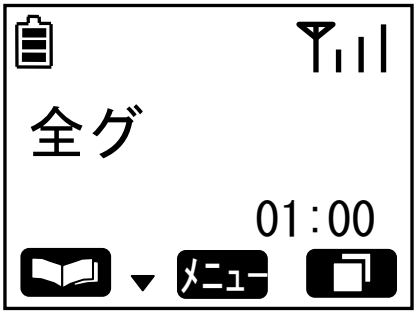
前回起動時から移動局情報に変更が無い場合は、本画面は表示されません。



4．使用可能な状態になる

初期状態の待ち受け画面が表示されます。

電池残量や電界の状態を確認してください。

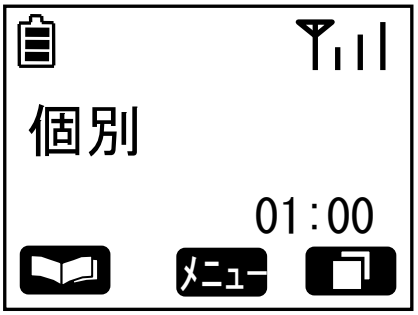


ワンポイント

- ☎電源キーを押してから約５秒後に使用可能な状態になります。（移動局情報の登録が行われない場合）
- 電源を切る時は、再度☎電源キーを長押ししてください。「電源オフ」というメッセージを表示し、約５秒後に電源が切断されます。
- 電源を入れる前に、電池パックの充電やアンテナの取り付け確認等の事前準備を行ってください。準備に関する詳細は、「4. ご使用になる前に」を参照してください。
- 電池パックを交換する際は、いったん電源を切断してから交換してください。
- 電源切断前にキーロックを設定していた場合は、再投入時も継続されます。キーロックに関する詳細は、「5.33 キーロックを設定する」を参照してください。
- 待ち受け画面には、通信モード、発信先番号または名称、設定によって通信時限、自ゾーン、自局状態等が表示されます。その他、無線機モードを示すスピーカーマークや本体の温度上昇を警告する温度マークが表示される場合があります。
- 単一無線ゾーン運用時は、画面に「制限」と表示されます。
- 管外ゾーン捕捉時は、画面に「グ×」と表示されます。この場合、通信は個別通信しか行えません。

2	通信モードを切り替えて発信する	発信したい通信モードに切り替えて、通信を開始します。

１．モードキーを押す

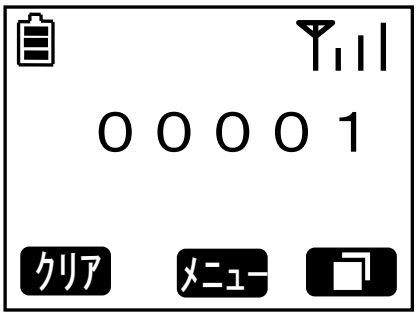


キーを押すごとに、通信モードが順次切り替わります。

全ｸﾞﾙｰﾌﾟ→ｸﾞﾙｰﾌﾟ→個別→電話→全ｸﾞﾙｰﾌﾟ一斉→…（システム定数で内容の変更可）

発信したいモードを選択してください。

２．相手先番号を入力する

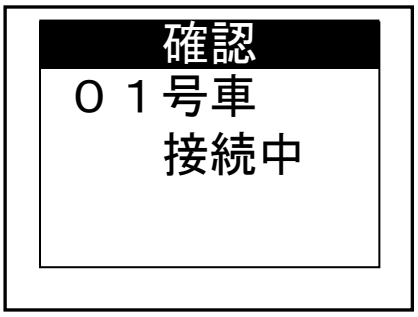


通信モードがグループまたは個別の場合はテンキーを押して、発信先の個別番号を入力してください。

クリアキーを押すと、入力中の番号の最後の数字が消去されます。

クリアキーを押し続けると、入力中の番号の全ての数字が消去されます。

３．プレストークスイッチを押す



表示中の番号に対して発呼します。

４．通話を開始する

通信接続が成功すると、「ピッピー」という成功音が鳴り、通話マークが点灯します。

画面に通話残時間が表示され、通話が可能な状態になります。

ワンポイント

・発信番号を直接入力するのではなく、局番号帳を利用したい場合は、「5.3 局番号帳を利用して発信する」を参照してください。

５．通話を行う

プレストークスイッチを押しながらお話ししてください。

「ピッ」という通話指示音が鳴り、送信マークが点灯したら、送話することができます。

６．通話を聞く

プレストークスイッチを離してください。

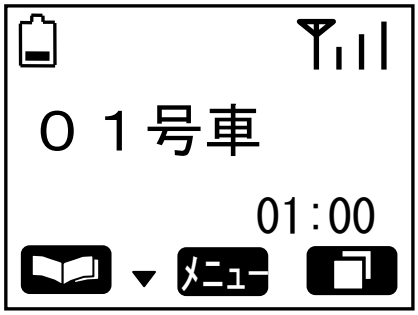
相手が送話を始めると、話中マークが点灯し、相手の音声が聞こえてきます。

相手局の送話が終了すると、話中マークが消灯し､通話マークが再度点灯します。

７．通話を終了する

電源キーを押してください。

通信接続を終了し､画面は待ち受け画面に戻ります。



ワンポイント

・プレストークスイッチを押した時に「プップップ」という無効音が鳴った場合は、不当な番号（範囲外数値等）が入力されているおそれがありますので、番号をご確認の上、再度同様の操作を行ってください。
・接続に失敗した時は｢プップップ｣という失敗音が鳴り（話し中の場合は「プープー…」というビジートーン）、画面に理由を示すメッセージが表示されます。内容をご確認の上、再度同様の操作を行ってください。
・回線が混み合っている時は「ピーポーパー」という予約音が鳴り、画面に予約を知らせるメッセージが表示されます。予約が解除されるまでしばらくお待ちください。
・通信開始後に通話を行おうとした際に、送信権の獲得に失敗すると｢プップップ｣という失敗音が鳴ります。その場合は、話中マークが点灯していないかどうかを確認後、再度プレストークスイッチを押してください。
・通話制限時間が経過すると、通信が終了になります。制限時間の約１０秒前に「ピッ」という終話予告音が鳴り、その後「プー」という終話音と共に通信が終了します。単信通信時は、誰も通話を行わない状態が５秒間継続すると、自動的に通信が終了します。
・発着信を連続で行い、送信動作状態が長く継続すると、携帯機の温度が上昇します。電池の節約や温度負荷軽減のために、そのような運用は極力行わないようご注意ください。
・温度上昇や電池残量不足で運用に支障が発生するおそれがあると、警告音が鳴り、画面にメッセージが表示されます。詳細は、「5.34 警告表示を行う」を参照してください。
・通話モードが「電話機モード」の場合、単信通信中はプレスを促す押マークが表示されます。

3	局番号帳を利用して発信する	あらかじめ相手局の情報を登録したアドレス帳を利用して、通信を開始します。

1．📖キーを押す

右記画面が表示されます。

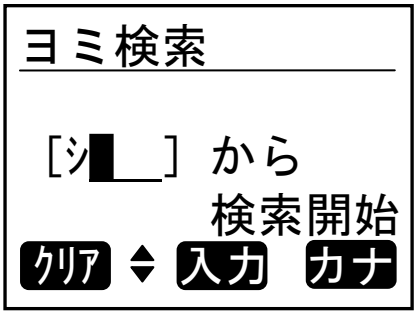
2．文字を入力する

テンキーを押して、検索したい局名称を入力してください。最大４文字まで入力できます。

カナキーを押すと、入力モードがカナ→英字→数字→･･･の順に切り替わります。

ｸﾘｱキーを押すと、入力中の最後の文字が消去されます。更に押し続けると、入力中の全ての文字が消去されます。

入力キーを押すと、現在入力中の文字が確定されます。



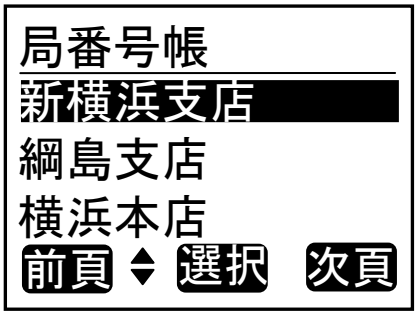
3．矢印キーを押す

局番号帳に登録されたよみがなの順に頭出し検索を行い、右記の局番号帳が表示されます。

矢印キーを押すと、カーソルが移動します。▼キーで次、▲キーで前項目となります。更に押し続けると、３頁飛びでの連続表示が行われます。

前頁キー／次頁キーを押すと、現在の表示画面の改頁を行います。

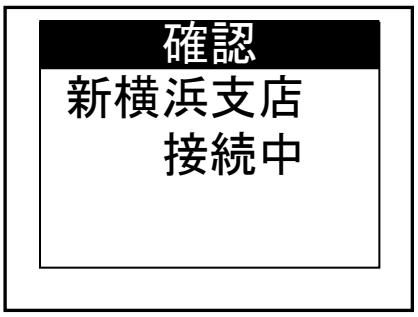
選択キーを押すと、メニュー画面に移行します。



４．プレストークスイッチを押す

表示中の番号に対して通信を始めます。

以降の発信動作は、「5.2 通信モードを切り替えて発信する」を参照してください。



ワンポイント

・局番号帳に登録可能な件数は、最大１０１件です。
・局番号帳には、名称や番号以外にもさまざまな内容を登録することができます。内容に関する詳細は、「5.32 局番号帳の詳細情報を確認する」を参照してください。

4	全グループ通信を受ける	他局からの全グループ通信を受け、通話を行います。

１．話中マークが点灯する

全グループ通信が着信すると、画面が着信を知らせる状態になります。

画面上に通話残時間が表示され、全グループ通信が開始します。

２．通話を聞く

そのままで通話を聞くことができます。

他局が送話を行っている場合は、話中マークが点灯し、相手局の音声が聞こえてきます。

相手局の送話が終了すると、話中マークが消灯し、通話マークが点灯します。

３．通話を行う

プレストークスイッチを押しながらお話ししてください。

送信権が獲得できた場合は、「ピッ」という通話指示音が鳴り、送信マークが点灯し、送話することができます。

ワンポイント

・全グループ通信は同一ユーザ内の全局が対象の通信です。
・全グループ通信では、着信側が☎電源キーを押しても通話を終了することはできません。（発信側が終了するか、一定時間誰も通話を行わなかった場合に自動終了）　ただし、この場合は現通信から自局のみ離脱することができます。
・通信開始後に通話を行おうとした際に、送信権の獲得に失敗すると「プップップ」という失敗音が鳴ります。
その場合は、話中マークが点灯していないかどうかを確認後、再度プレストークスイッチを押してください。
・発着信を連続で行い、送信動作状態が長く継続すると、携帯機の温度が上昇します。電池の節約や温度負荷軽減のために、そのような運用は極力行わないようご注意ください。
・温度上昇や電池残量不足で運用に支障が発生するおそれがあると、警告音が鳴り、画面にメッセージが表示されます。詳細は、「5.34 警告表示を行う」を参照してください。
・通話モードが「電話機モード」の場合、単信通信中はプレスを促す押マークが表示されます。

5	グループ通信を受ける	他局からのグループ通信を受け、通話を行います。

１．話中マークが点灯する

グループ通信が着信すると、画面が着信を知らせる状態になります。

画面上に通話残時間が表示され、グループ通信が開始します。

２．通話を聞く

そのままで通話を聞くことができます。

他局が送話を行っている場合は、話中マークが点灯し、相手局の音声が聞こえてきます。

相手局の送話が終了すると、話中マークが消灯し、通話マークが点灯します。

３．通話を行う

プレストークスイッチを押しながらお話ししてください。

送信権が獲得できた場合は、「ピッ」という通話指示音が鳴り、送信マークが点灯し、送話することができます。

ワンポイント

・グループ通信は同一ユーザ内の全局を特定のグループに分けて行う通信です。
・グループ通信では、着信側が☎電源キーを押しても通話を終了することはできません。（発信側が終了するか、一定時間誰も通話を行わなかった場合に自動終了）　ただし、この場合は現通信から自局のみ離脱することができます。
・通信開始後に通話を行おうとした際に、送信権の獲得に失敗すると「プップップ」という失敗音が鳴ります。
その場合は、話中マークが点灯していないかどうかを確認後、再度プレストークスイッチを押してください。
・発着信を連続で行い、送信動作状態が長く継続すると、携帯機の温度が上昇します。電池の節約や温度負荷軽減のために、そのような運用は極力行わないようご注意ください。
・温度上昇や電池残量不足で運用に支障が発生するおそれがあると、警告音が鳴り、画面にメッセージが表示されます。詳細は、「5.34 警告表示を行う」を参照してください。
・通話モードが「電話機モード」の場合、単信通信中はプレスを促す押マークが表示されます。

6	個別通信を受ける	他局からの個別通信を受け、通話を行います。

１．「ピッポー」という着信音が鳴り、話中マークが点灯する

個別通信が着信すると、画面のバックライトが点灯し、着信を知らせる状態になります。

画面上に通話残時間が表示され、個別通信が開始します。

２．通話を聞く

そのままで通話を聞くことができます。

他局が送話を行っている場合は、話中マークが点灯し、相手局の音声が聞こえてきます。

相手局の送話が終了すると、話中マークが消灯し、通話マークが点灯します。

３．通話を行う

プレストークスイッチを押しながらお話ししてください。

送信権が獲得できた場合は、「ピッ」という通話指示音が鳴り、送信マークが点灯し、送話することができます。

ワンポイント

・個別通信は１対１で個別に行う通信です。
・個別通信では、着信側でも☎電源キーを押して通話を終了することができます。（発信側が終了するか、一定時間誰も通話を行わなかった場合の自動終了に加えて）
・通信開始後に通話を行おうとした際に、送信権の獲得に失敗すると「プップップ」という失敗音が鳴ります。
その場合は、話中マークが点灯していないかどうかを確認後、再度プレストークスイッチを押してください。
・発着信を連続で行い、送信動作状態が長く継続すると、携帯機の温度が上昇します。電池の節約や温度負荷軽減のために、そのような運用は極力行わないようご注意ください。
・温度上昇や電池残量不足で運用に支障が発生するおそれがあると、警告音が鳴り、画面にメッセージが表示されます。詳細は、「5.34 警告表示を行う」を参照してください。
・通話モードが「電話機モード」の場合、単信通信中はプレスを促す押マークが表示されます。

7	全グループ一斉通信を受ける	他局からの全グループ一斉通信を受け、通話を行います。

１．「ピーポーピーポー」という着信音が鳴り、話中マークが点灯する

全グループ一斉通信が着信すると、画面のバックライトが点灯し、着信を知らせる状態になります。

画面上に通話残時間が表示され、全グループ一斉通信が開始します。

２．通話を聞く

そのままで通話を聞くことができます。

他局が送話を行っている場合は、話中マークが点灯し、相手局の音声が聞こえてきます。

相手局の送話が終了すると、話中マークが消灯し、通話マークが点灯します。

３．通話を行う

プレストークスイッチを押しながらお話ししてください。

送信権が獲得できた場合は、「ピッ」という通話指示音が鳴り、送信マークが点灯し、送話することができます。

ワンポイント

・全グループ一斉通信は同一ユーザ内の全局の通信を強制的に終了させ、管理移動局から優先的に通話を行う通信です。
・全グループ一斉通信では、着信側が☎電源キーを押しても通話を終了することはできません。（発信側が終了するか、一定時間誰も通話を行わなかった場合に自動終了）
・通信開始後に通話を行おうとした際に、送信権の獲得に失敗すると「プップップ」という失敗音が鳴ります。
その場合は、話中マークが点灯していないかどうかを確認後、再度プレストークスイッチを押してください。
・発着信を連続で行い、送信動作状態が長く継続すると、携帯機の温度が上昇します。電池の節約や温度負荷軽減のために、そのような運用は極力行わないようご注意ください。
・温度上昇や電池残量不足で運用に支障が発生するおそれがあると、警告音が鳴り、画面にメッセージが表示されます。詳細は、「5.34 警告表示を行う」を参照してください。
・通話モードが「電話機モード」の場合、単信通信中はプレスを促す押マークが表示されます。

8	システム一斉通信を受ける	各移動無線センター（中継局）からの一斉通信が着信します。

１．「ピーポーピーポー」という着信音が鳴り、話中マークが点灯する

システム一斉通信が着信すると、画面のバックライトが点灯し、着信を知らせる状態になります。

画面上に通話残時間が表示され、システム一斉通信が開始します。

２．通話を聞く

そのままで通話を聞くことができます。

システム一斉通信中は、話中マークが点灯し、中継局からの音声が聞こえてきます。

ワンポイント

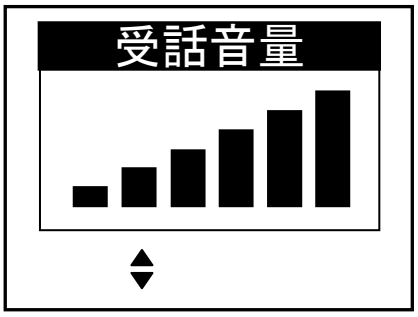
・システム一斉通信は、各移動無線センター（中継局）から優先的に通話を行う通信です。
・システム一斉通信中は、自局からの通話は行えません。
・システム一斉通信では、着信側が☎電源キーを押しても通話を終了することはできません。（発信側が終了するか、一定時間誰も通話を行わなかった場合に自動終了）
・温度上昇や電池残量不足で運用に支障が発生するおそれがあると、警告音が鳴り、画面にメッセージが表示されます。詳細は、「5.34 警告表示を行う」を参照してください。

９	受話音量を調節する	通話時の受話音量の大きさを調整します。

１．通信中に矢印キーを押す

▼キーで小さく、▲キーで大きくなります。

レベルは６段階で、画面にその内容が表示されます。



ワンポイント

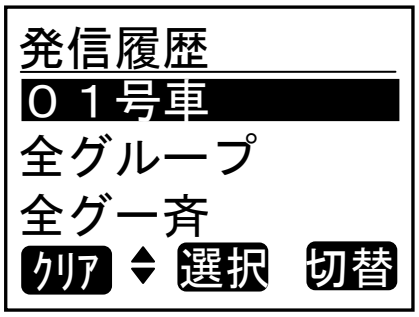
・受話音量の調節は、基本的に発信動作に入ってから可能となります。
・待ち受け時には、通話に入った直後の音量をあらかじめ設定しておくことができます。その場合には、待ち受け画面で メニュー キーを押し、メニュー画面で「９音量調整」を選択します。そこで上記と同様の操作を行ってください。ただし、電源切断の前に電池をはずしてしまうと、設定が元に戻りますのでご注意ください。
・伝言メモや通話メモの再生時にも音量の調整が可能です。

10	リダイヤルする	以前に発信した相手局の中から番号を選択し再度発信することができます。

１．[履歴]キーを押す

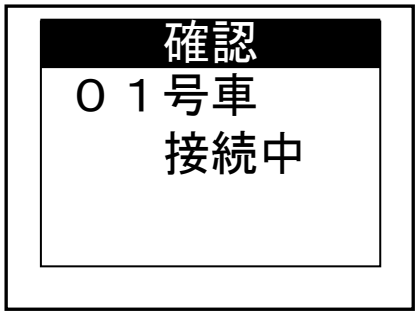
最新の発信履歴が表示されます。
通信モード、相手局番号または名称が基本的な表示内容です。

矢印キーを押すとカーソルが移動し、最大１０件までの履歴が表示されます。
▼キーで次、▲キーで前履歴となります。



２．プレストークスイッチを押す

表示中の番号に対して発呼します。



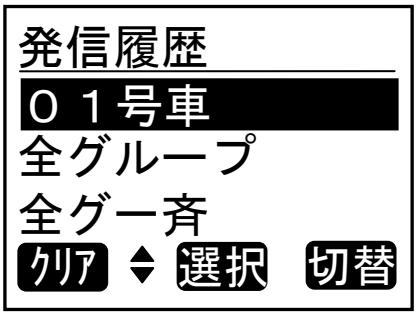
ワンポイント

・履歴は新しいものから順に格納され、メモリが満杯になると一番古い内容が自動的に消去されます。
・同一の発信内容は連続で格納されません。（ただし、設定によって連続格納への変更も可能）
・履歴を表示中にｸﾘｱキーを押すと、内容が消去され、「発信履歴を全件消去しました」というメッセージが表示されます。
・発信及び着信履歴が共に無い場合は、待ち受け画面で履歴表示を行おうとした際に「履歴が１件もありません」というメッセージが表示されます。
・選択キーを押すと、メニュー画面に移行します。履歴の相手局に対してメール送信や伝言メモ録音等が行えます。
・切替キーを押すと、着信履歴が表示されます。ただし、着信履歴が無い場合は表示されません。
・発信失敗時は「プップップ」という失敗音（話し中の場合は「プープー…」というビジートーン）が鳴り、画面に理由を示すメッセージが表示されます。内容をご確認の上、再度同様の操作を行ってください。
・電源を切断しても内容は保存されます。ただし、電源切断の前に電池をはずしてしまうと、内容が保持されませんのでご注意ください。
・温度上昇や電池残量不足で運用に支障が発生するおそれがあると、警告音が鳴り、画面にメッセージが表示されます。詳細は、「5.34 警告表示を行う」を参照してください。

11	コールバックする	以前に着信した相手局の中から番号を選択しかけなおすことができます。

１．□キーを押す

最新の発信履歴が表示されます。



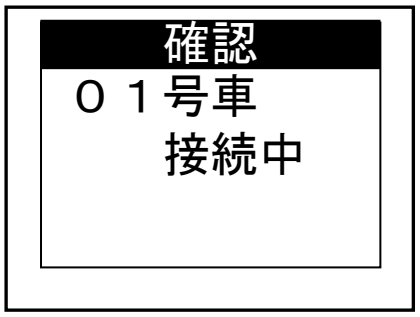
２．切替キー押す

最新の着信履歴が表示されます。
通信モード、相手局番号または名称が基本的な表示内容です。

矢印キーを押すとカーソルが移動し、最大１０件までの履歴が表示されます。
▼キーで次、▲キーで前履歴となります。

３．プレストークスイッチを押す

表示中の番号に対して発呼します。



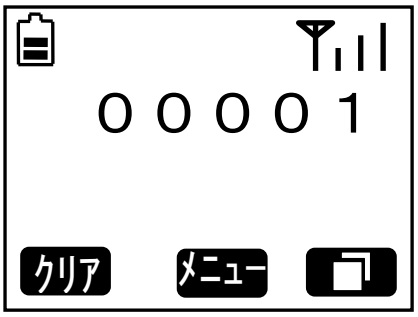
ワンポイント

・履歴は新しいものから順に格納され、メモリが満杯になると一番古い内容が自動的に消去されます。
・履歴を表示中にｸﾘｱキーを押すと、内容が消去され、「着信履歴を全件消去しました」というメッセージが表示されます。
・発信及び着信履歴が共に無い場合は、待ち受け画面で履歴表示を行おうとした際に「履歴が１件もありません」というメッセージが表示されます。また、発信履歴のみが無い場合は、待ち受けから着信履歴の表示画面に直接移行します。
・選択キーを押すと、メニュー画面に移行します。履歴の相手局に対してメール送信や伝言メモ録音等が行えます。
・切替キーを押すと、発信履歴が表示されます。ただし、発信履歴が無い場合は表示されません。
・発信失敗時は「プップップ」という失敗音（話し中の場合は「プープー…」というビジートーン）が鳴り、画面に理由を示すメッセージが表示されます。内容をご確認の上、再度同様の操作を行ってください。
・電源を切断しても内容は保存されます。ただし、電源切断の前に電池をはずしてしまうと、内容が保持されませんのでご注意ください。
・温度上昇や電池残量不足で運用に支障が発生するおそれがあると、警告音が鳴り、画面にメッセージが表示されます。詳細は、「5.34 警告表示を行う」を参照してください。

12	セレコールを送信する	不在の相手局に対し折り返しの連絡が欲しい際に、それを知らせる着信表示を行います。

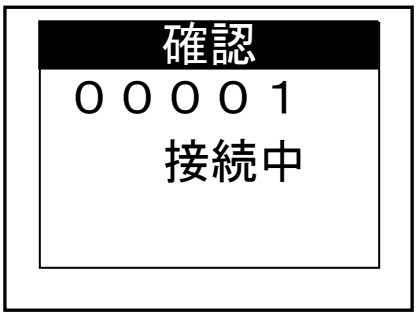
１．待ち受け画面で相手局番号を入力する

送信したい相手局番号を入力します。



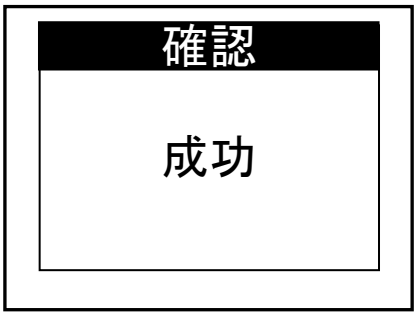
２．送信キーを押す

右記画面が表示されます。



５．セレコールが送信される

送信に成功すると、「ピッポー」という成功音が鳴り、右画面が表示されます。

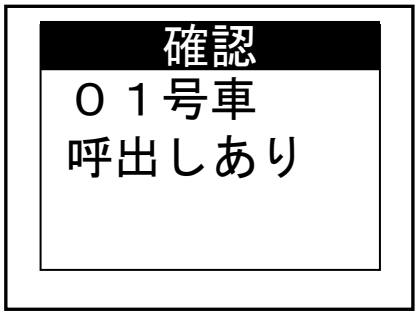


ワンポイント

・セレコールは相手局の画面上に自局番号を表示させ、その状態でプレストークスイッチを押すと簡単に折り返しの接続が行える機能です。
・相手局番号を直接入力する代わりに、局番号帳を利用して相手局を指定することもできます。局番号帳に関する詳細は、「5.3 局番号帳を利用して発信する」を参照してください。
・セレコールを送信する際は、待ち受け画面で設定されたモードで発呼します。
・セレコールの送信に失敗すると、「ピー」という失敗音が鳴り、画面に失敗内容を示すメッセージが表示されます。詳細は、「８．メッセージ一覧」を参照してください。

13	セレコールを受信する	折り返しの連絡が欲しい際に、相手局が自局に対しそれを知らせる着信表示を行います。

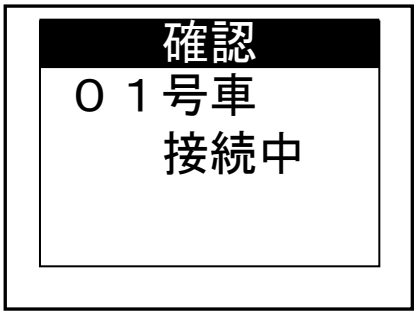
１.「ピッポー」という着信音が３回鳴り、画面が表示される



セレコールを受信すると、画面のバックライトが点灯し、受信を知らせる状態になります。

画面上には、相手局の番号または名称が表示され、何らかの操作が行われるまで、その画面が持続します。

２．プレストークスイッチを押す



セレコールを発信した相手局に対し、折り返し発呼します。

３．通話を開始する

通信接続が成功すると、右記画面が表示されます。

通常の発呼時と同様に通話を行うことができます。

ワンポイント

・セレコール受信時の画面の持続時間（無制限／１時間）は、送信局側の設定によって決定されます。
・セレコール受信画面が未確認のまま通常画面に戻る際は、その内容が着信履歴に格納されます。
・折り返し発呼を行う際、セレコールを受信した時のモードによって発呼モードが変わります。
　①受信時モードが「個別」　　：個別モードで発呼
　②受信時モードが「グループ」　：グループモードで発呼
　③受信時モードが「全グループ」　：全グループモードで発呼
　④受信時モードが「全グループ一斉」：全グループモードで発呼
・「ピッポー」という鳴音を鳴らすだけのセレコール受信もあります。その際は、プレストークスイッチを押しても相手局に折り返し接続を行わず、通常の自局の待ち受け画面表示時に行われている発呼と同様になりますのでご注意ください。

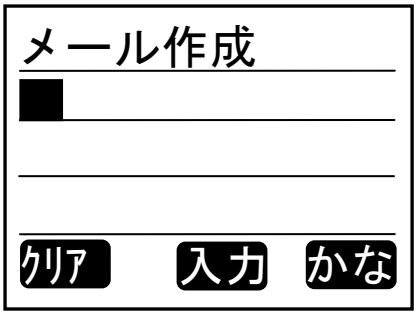
14	メールを送信する	相手局にメールを送信します。

１．待ち受け画面で相手局番号を入力後、メニューキーを押す

右記画面が表示されます。

２．選択キーを押す

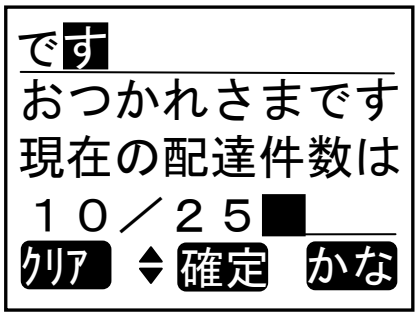
メールの作成を行う右記画面が表示されます。



３．文字を入力する

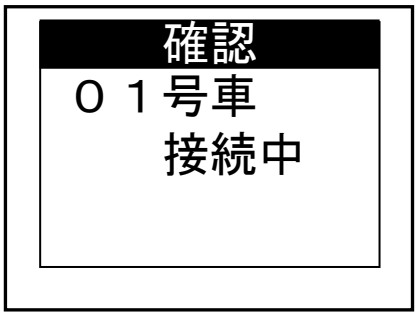
送信したいメールの内容を入力してください。

メール作成に関する詳細は、「5.15 かな漢字変換」を参照してください。



４．送信キーを押す

右記画面が表示されます。

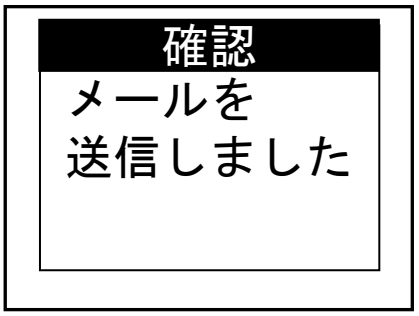


ワンポイント

・相手局番号を直接入力する代わりに、局番号帳を利用して相手局を指定することもできます。局番号帳に関する詳細は、「5.3 局番号帳を利用して発信する」を参照してください。
・メールを送信する際は、待ち受け画面で設定されたモードで発呼します。

５．メールが送信される

送信に成功すると、「ピッポー」という成功音が鳴り、右画面が表示されます。



ワンポイント

・メールの送信に失敗すると、「ピー」という失敗音が鳴り、画面に失敗内容を示すメッセージが表示されます。
詳細は、「８．メッセージ一覧」を参照してください。

15	かな漢字変換を行う	送信メールの内容をかな漢字で入力します。

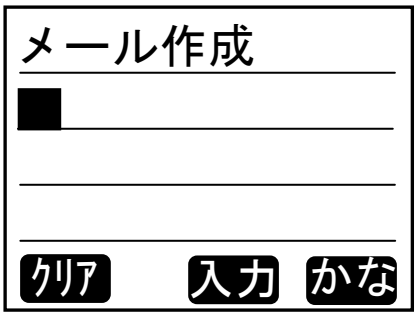
１．メニューキーを押す

メール作成時のみ、かな漢字入力機能が使用できます。

「１メール送信」にカーソルを合わせてください。

２．選択キーを押す

右記画面が表示されます。

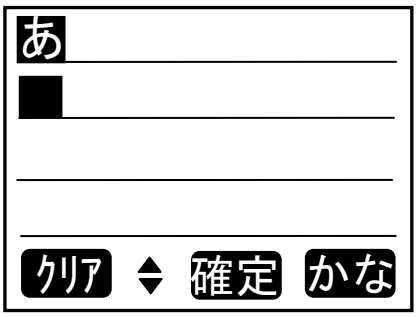


３．テンキーを押す

全角ひらがな、全角カタカナ、英字、数字記号、定型文が入力できます。文字の入力に関する主なキー操作は以下の通りです。

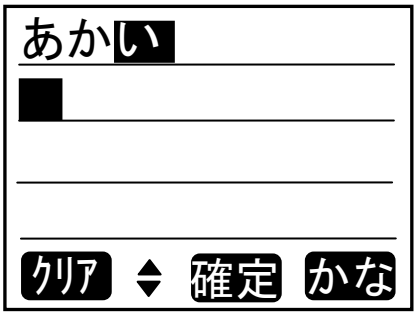
□□■　：入力モードの切替
（かな漢字→カナ→英字→数字
→定型文→・・・・・）

＊／＃　：カーソル移動（左／右）
矢印キー：変換（かな漢字モードのみ）
検索（定型文モードのみ）
テンキー：モード別に文字入力（下表参照）



文　字　の　割　り　付　け　一　覧				
キー	かな入力	カナ入力	英字入力	数字入力
1	あいうえおぁぃぅぇぉ	アイウエオｱｨｳｴｵ		1
2	かきくけこ	カキクケコ	ＡＢＣａｂｃ	2
3	さしすせそ	サシスセソ	ＤＥＦｄｅｆ	3
4	たちつてとっ	タチツテトッ	ＧＨＩｇｈｉ	4
5	なにぬねの	ナニヌネノ	ＪＫＬｊｋｌ	5
6	はひふへほ	ハヒフヘホ	ＭＮＯｍｎｏ	6
7	まみむめも	マミムメモ	ＰＱＲＳｐｑｒｓ	7
8	やゆよゃゅょ	ヤユヨャュョ	ＴＵＶｔｕｖ	8
9	らりるれろ	ラリルレロ	ＷＸＹＺｗｘｙｚ	9
0	わをん゛゜ー、。↓(改行)	ワヲン゛゜ー、。↓(改行)	-!?:()%&¥+,/*#>	0

かな漢字モードでテンキーを押すと、最上段の「メール作成」の文字が消去され、入力した文字が表示されます。
例えば[1]キーを連続で押すと「あ」から順に「ぉ」までが表示されます。その後、[2]キーを押すと、カーソルが右に移動し、「か」が表示されます。
８文字目では、カーソルがそれ以上は移動せず、その文字を上書きします。
いったん入力した文字を修正する場合は、カーソルをその位置まで移動させ、正しい文字で上書きしてください。



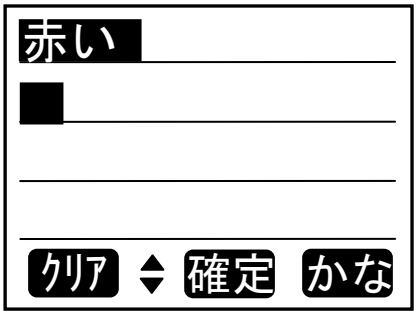
カナ、英字、数字モードの時は、２段目より下段に入力した文字が表示されます。

テンキーでの入力方法はかな漢字モード時と同様です。

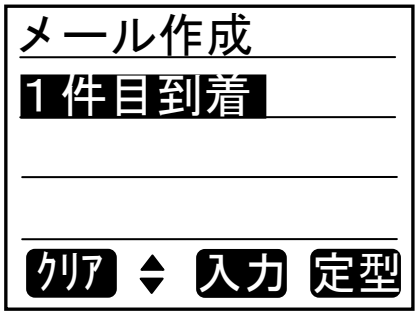
定型文モード時は、テンキー入力はできません。（矢印キーによる検索操作のみ可能）

４．矢印キーを押す

かな漢字モードの時に矢印キーを押すと、漢字や全角のかな文字等に変換されます。
変換された文字は反転表示となります。
▼キーで次、▲キーで前変換候補が順次表示されます。



定型文モードの時に矢印キーを押すと、登録されている定型文が表示されます。
検索された定型文は反転表示となります。
▼キーで次、▲キーで前登録定型文が順次表示されます。

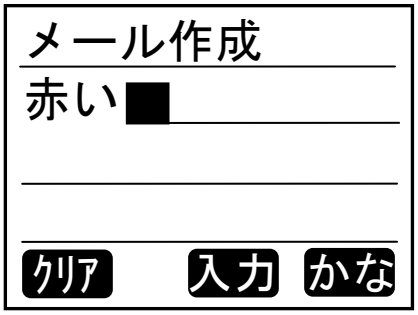


矢印キーは、かな漢字モード・定型文モード以外の入力モードでは無効です。

ワンポイント

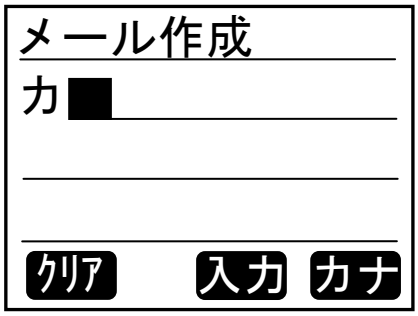
・最大全角２４文字（全角８文字×３段）入力することができます。
・２４文字目が入力確定されている時はカーソルがそれ以上は移動せず、次入力文字は２４文字目を上書きします。
・定型文選択時に２４文字を超える場合は、２４文字目までを表示します。
・前回送信したメールがある場合は、その本文が最終登録の定型文として定型文の検索時に表示され、選択することができます。
・定型文が１件も登録されてない場合は、入力モードの切替時に定型が表示されません。

５．確定キーを押す



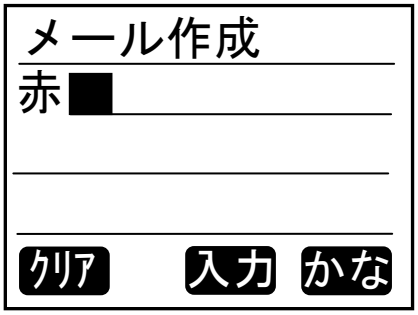
４．で変換した文字が確定されます。

確定した文字は下段に表示されます。
最上段には「メール作成」の文字が再表示されます。



カナ、英字、定型文モードの時に入力キーを押すと、入力した文字や検索した定型文を確定することができます。（カーソルが１つ右に移動）

６．ｸﾘｱキーを押す



入力された文字が消去されます。
かな漢字モード時は確定前の文字（最上段）、確定した文字（下段）の順に消去されます。

漢字変換中で最上段が反転表示時は、変換が解除されます。
消去には以下のパターンがあります。

１回押し：カーソル上の文字が消えます。
（右に文字があればつめる）
カーソル上に文字がなければ、
１つ左の文字が消えます。
（カーソルが左に移動）
長押し　：入力文字が全部消えます。
（かな漢字モードでは、上下段ごとに全消去）

ワンポイント

・入力した文字が未確定時に入力モードを変更すると、未確定の文字が確定し、カーソルが１つ右に移動してから入力モードが切り替わります。
・かな漢字モードで文字確定時に２４文字を超える場合は、２４文字目までを表示します。
・かな漢字モード時、最上段の文字入力中にｸﾘｱキーを押して入力中の文字を全消去すると、「メール作成」の文字が再表示されます。
・作成したメールの送信方法に関する詳細は、「5.14 メールを送信する」を参照してください。

16	伝言メモを送信する	相手局の留守録にメッセージを録音します。

１．待ち受け画面で相手局番号を入力後、メニューキーを押す

右記画面が表示されます。

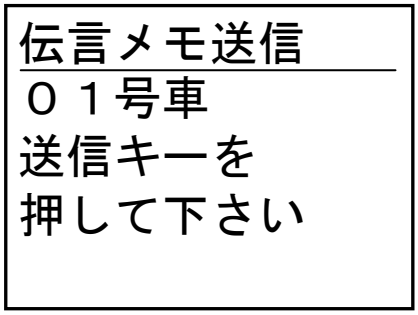
２．矢印キーを押す

カーソルが移動します。
▼キーで次、▲キーで前項目となります。

「２伝言メモ送信」にカーソルを合わせてください。

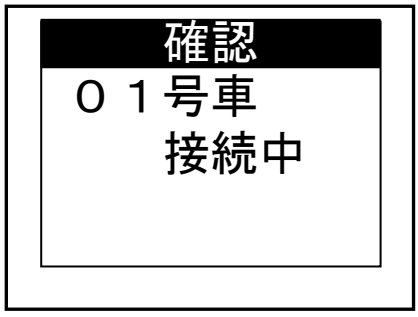
３．選択キーを押す

右記画面が表示されます。



４．送信キーを押す

右記画面が表示されます。



ワンポイント

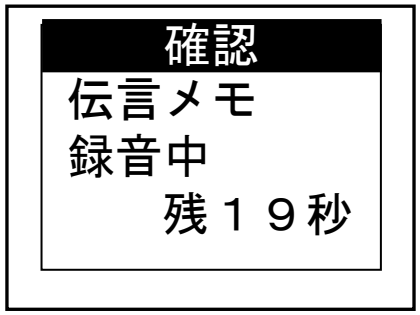
・メニューキーを押した後、矢印キーを押さずに2キーを押すと、伝言メモ送信画面に直接移行します。
・相手局番号を直接入力する代わりに、局番号帳を利用して相手局を指定することもできます。局番号帳に関する詳細は、「5.3 局番号帳を利用して発信する」を参照してください。
・伝言メモを送信する際は、待ち受け画面で設定されたモードで発呼します。

５．メッセージを録音する

送信に成功すると、「ピッポー」という成功音が鳴り、右画面が表示されます。

プレストークスイッチを押しながらお話ししてください。

画面には、録音可能な残時間が表示され、その時間内で相手局にメッセージが録音できます。



ワンポイント

・伝言メモの送信に失敗すると、「ピー」という失敗音が鳴り、画面に失敗内容を示すメッセージが表示されます。詳細は、「８．メッセージ一覧」を参照してください。

・伝言メモの録音時間や録音件数は設定によって異なります。設定に関する詳細は、「６．桁数・件数一覧」を参照してください

17	取消セレコールを送信する	自局から送信したセレコールを取り消しします。

１．待ち受け画面で相手局番号を入力後、メニューキーを押す

右記画面が表示されます。

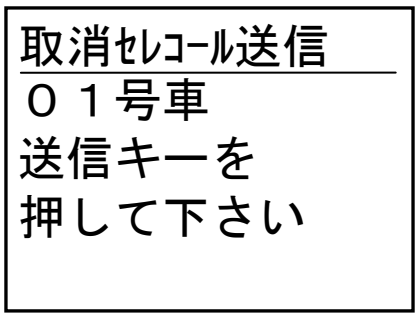
２．矢印キーを押す

カーソルが移動します。
▼キーで次、▲キーで前項目となります。

「３取消セレコール送信」にカーソルを合わせてください。

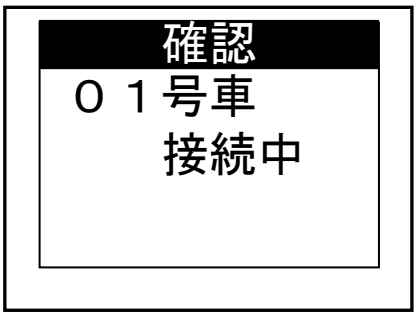
３．選択キーを押す

右記画面が表示されます。



４．送信キーを押す

右記画面が表示されます。

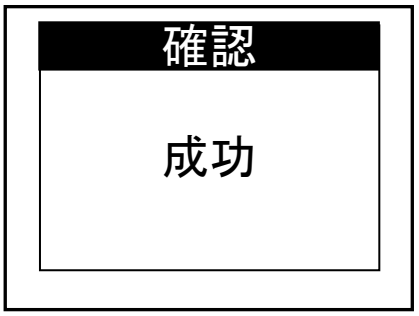


ワンポイント

・メニューキーを押した後、矢印キーを押さずに3キーを押すと、取消セレコール送信画面に直接移行します。
・相手局番号を直接入力する代わりに、局番号帳を利用して相手局を指定することもできます。局番号帳に関する詳細は、「5.3 局番号帳を利用して発信する」を参照してください。
・取消セレコールを送信する際は、待ち受け画面で設定されたモードで発呼します。

５．セレコールが取り消される

取り消しに成功すると、「ピッポー」という
成功音が鳴り、右画面が表示されます。



ワンポイント

・セレコールの取り消しに失敗すると、「ピー」という失敗音が鳴り、画面に失敗内容を示すメッセージが表示されます。詳細は、「８．メッセージ一覧」を参照してください。

18	受信メールの履歴を確認する	受信したメールの履歴を確認し、メールの返信ができます。

１．メニューキーを押す

右記画面が表示されます。

２．矢印キーを押す

カーソルが移動します。
▼キーで次、▲キーで前項目となります。

「４受信メール履歴」にカーソルを合わせてください。

３．選択キーを押す

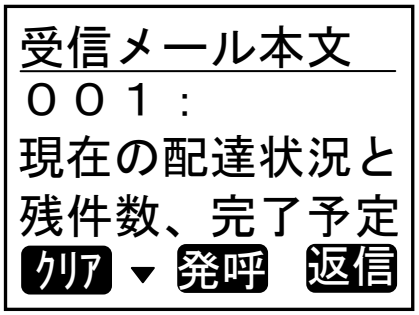
右記画面が表示されます。

受信した相手局番号または名称が表示され、その前にメールか伝言メモかを示すマークが付いています。

メールマーク：（未読）／（既読）
伝言ﾒﾓマーク：（未確）／（確済）

４．選択キーを押す

受信したメールの本文が表示されます。



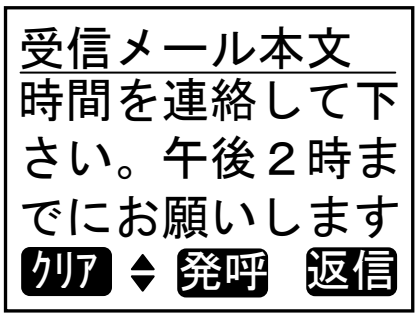
ワンポイント

・ﾒﾆｭｰキーを押した後、矢印キーを押さずに4キーを押すと、受信メール履歴画面に直接移行します。
・履歴は新しいものから順に最大１０件まで格納されます。メモリが満杯になると、既読で一番古い内容から自動的に消去されます。（設定によって、消去されないパターンも選択可）
・切替キーを押すと、送信メール履歴が表示されます。ただし、履歴が無い場合は「送信メールはありません」というメッセージが表示されます。

５．矢印キーを押す

メールに続きがある場合は、その内容が表示されます。

▼キーで次、▲キーで前頁となります。



６．返信キーを押す

新たにメールを作成するための画面に移行します。

メールの作成に関する詳細は、「5.15 かな漢字変換を行う」を参照してください。

ワンポイント

・メール表示時にｸﾘｱキーを押すと、そのメールが消去され、「受信メールを１件消去しました」というメッセージが表示されます。更に押し続けると、メール及び伝言メモを全件消去することができます。ただし、未読の内容は消去することができません。
・発呼キーを押すと、メールを受信した相手局に対して発呼します。
・メールの確認が完了すると、確認状況を示すマークが未読→既読に更新されます。ただし、受信したメールが複数のページにまたがる場合は、最終ページまで確認した際に既読扱いとなります。
・電源を切断しても内容は保存されます。ただし、電源切断の前に電池をはずしてしまうと、内容が保持されませんので

19	送信メールの履歴を確認する	送信したメールの履歴を確認し、メールの再送信ができます。

１．メニューキーを押す

右記画面が表示されます。

２．矢印キーを押す

カーソルが移動します。
▼キーで次、▲キーで前項目となります。

「５送信メール履歴」にカーソルを合わせてください。

３．選択キーを押す

右記画面が表示されます。

送信した相手局番号または名称が表示され、その前に送信済み（○）か未送信（×）かを示すマークが付いています。

４．矢印キーを押す

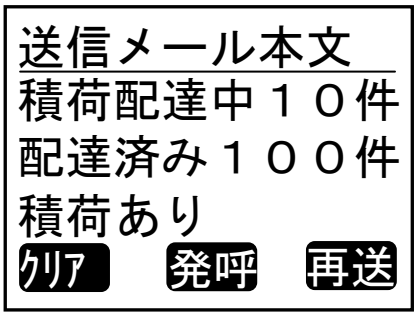
カーソルが移動します。
▼キーで次、▲キーで前項目となります。

ワンポイント

・メニューキーを押した後、矢印キーを押さずに5キーを押すと、送信メール履歴画面に直接移行します。
・履歴は新しいものから順に最大１０件まで格納されます。メモリが満杯になると一番古い内容から自動的に消去されます。
・切替キーを押すと、受信メール履歴が表示されます。ただし、履歴が無い場合は「受信メールはありません」というメッセージが表示されます。

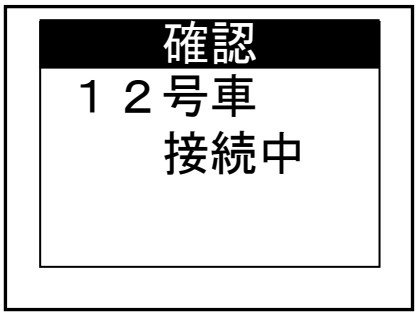
５．選択キーを押す

送信したメールの本文が表示されます。



６．再送キーを押す

再度メールの送信が開始されます。



ワンポイント

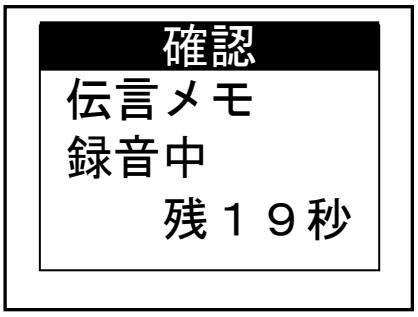
・メール表示時にｸﾘｱキーを押すと、そのメールが消去され、「送信メールを１件消去しました」というメッセージが表示されます。更に押し続けると、メールを全件消去することができます。
・発呼キーを押すと、メールを送信した相手局に対して発呼します。
・再送信が完了すると、送信状況を示すマークが×→○に更新されます。
・電源を切断しても内容は保存されます。ただし、電源切断の前に電池をはずしてしまうと、内容が保持されませんのでご注意ください。

20	伝言メモを受信する	相手局から自局に対して留守録メッセージが録音されます。

１.「ピッポー」という着信音が３回鳴り、画面が表示される

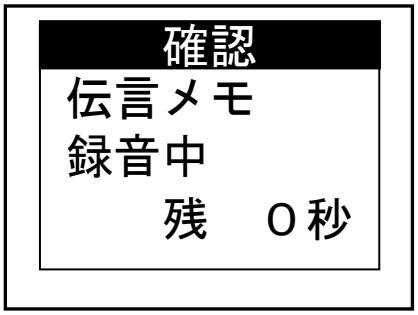
伝言メモを受信すると、画面のバックライトが点灯し、録音が開始されます。

画面上には、録音残時間が表示されます。



２. 録音が終了する

録音残時間が０秒に達するか相手局が録音を終了すると、画面は通常の通話画面に移行します。



ワンポイント

・伝言メモの録音時間や録音件数は設定によって異なります。設定に関する詳細は、「６. 桁数・件数一覧」を参照してください。

・伝言メモの再生に関する詳細は、「5.21 伝言メモを再生する」を参照してください。

21	伝言メモを再生する	相手局から自局宛に録音された留守録メッセージを再生します。

１．メニューキーを押す

右記画面が表示されます。

２．矢印キーを押す

カーソルが移動します。
▼キーで次、▲キーで前項目となります。

「４受信メール履歴」にカーソルを合わせてください。

３．選択キーを押す

右記画面が表示されます。

受信した相手局番号または名称が表示され、その前にメールか伝言メモかを示すマークが付いています。

メールマーク：（未読）／（既読）
伝言ﾒﾓマーク：（未確）／（確済）

４．矢印キーを押す

カーソルが移動します。
▼キーで次、▲キーで前項目となります。

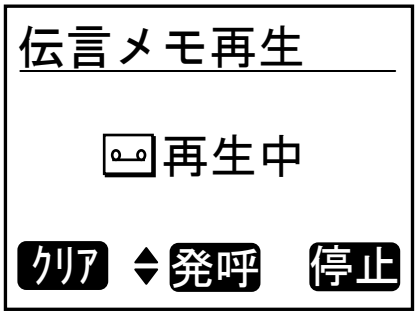
ワンポイント

・ﾒﾆｭｰキーを押した後、矢印キーを押さずに4キーを押すと、受信メール履歴画面に直接移行します。
・履歴は新しいものから順に最大１０件まで格納されます。メモリが満杯になると、既読で一番古い内容から自動的に消去されます。（設定によって、消去されないパターンも選択可）
・切替キーを押すと、送信メール履歴が表示されます。ただし、履歴が無い場合は「送信メールはありません」というメッセージが表示されます。

５．選択キーを押す

右記画面が表示され、伝言メモの再生が開始されます。

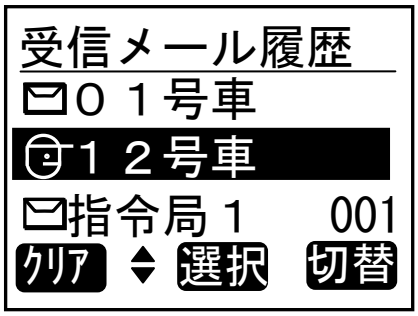
矢印キーを押すと、音量が調整されます。
▼キーで小さく、▲キーで大きくなります。



６．停止キーを押す

右記画面が表示され、再生が停止します。

画面は元の画面に戻り、伝言メモマークが未確認→確認済みに更新されます。



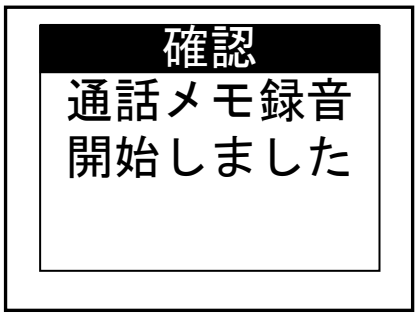
ワンポイント

・メモ再生時にｸﾘｱキーを押すと、そのメモが消去され、「受信メールを１件消去しました」というメッセージが表示されます。更に押し続けると、メール及び伝言メモを全件消去することができます。ただし、未読の内容は消去することができません。
・発呼キーを押すと、メールを受信した相手局に対して発呼します。
・電源を切断しても内容は保存されます。ただし、電源切断の前に電池をはずしてしまうと、内容が保持されませんのでご注意ください。

22	通話メモを録音する	自局の通信時の通話内容を録音します。

１．通話中に録音キーを押す

右記画面が表示されます。



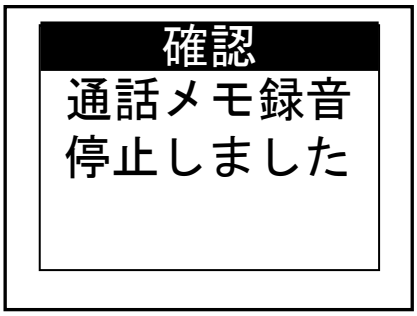
２．録音を開始する

画面は通話画面に戻り、新たにテープマークが点灯します。

３．停止キーを押す

右記画面が表示されます。

その後、画面は通話画面に戻り、画面上のテープマークが消灯し、通話メモ録音が停止します。



ワンポイント

・通話メモの録音時間は設定によって異なります。時間設定に関する詳細は、「６．桁数・件数一覧」を参照してください。
・通話メモに録音される内容は、録音停止直前の規定秒数となります。録音は常に上書きされ、最新の内容が残されます。
・録音をいったん停止してから再開した際は、前回分のメモ内容は消去されます。
・通話メモの録音内容は電源切断によって消去されます。
・単信時に録音されるのはお話ししている時のみ、複信時は相手局の音声のみが録音されます。

23	通話メモを再生する	通話中にメモ録音をした内容を再生します。

１．メニューキーを押す

右記画面が表示されます。

２．矢印キーを押す

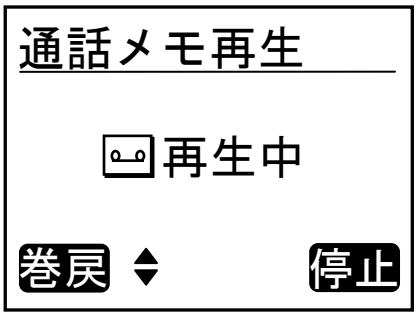
カーソルが移動します。
▼キーで次、▲キーで前項目となります。

「６通話メモ再生」にカーソルを合わせてください。

３．選択キーを押す

右記画面が表示され、通話メモの再生が開始されます。

矢印キーを押すと、音量が調整されます。
▼キーで小さく、▲キーで大きくなります。

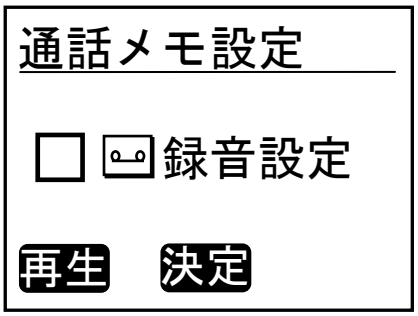


４．停止キーを押す

右記画面が表示され、再生が停止します。

通話メモの録音設定は自動的に解除されますので、新たに録音したい場合は、再度設定を行ってください。

設定に関する詳細は、「5.24 通話メモを設定する」を参照してください。



ワンポイント

・メニューキーを押した後、矢印キーを押さずに6キーを押すと、通話メモ再生画面に直接移行します。
・通話メモの録音時間は設定によって異なります。時間設定に関する詳細は、「６．桁数・件数一覧」を参照してください。
・通話メモに録音される内容は、録音停止直前の規定秒数となります。録音は常に上書きされ、最新の内容が残されます。
・通話メモが録音されていない場合は、再生は行われません。
・巻戻キーを押すと、押した回数分の巻き戻し再生が行われます。１回：２０秒／２回：６０秒／３回：１２０秒前から再生され、規定秒数の設定を超えたら、先頭から開始されます。長押しした場合は、先頭から再生されます。

24	通話メモを設定する	通話中にメモ録音ができる設定を行います。

1．メニューキーを押す

右記画面が表示されます。

2．矢印キーを押す

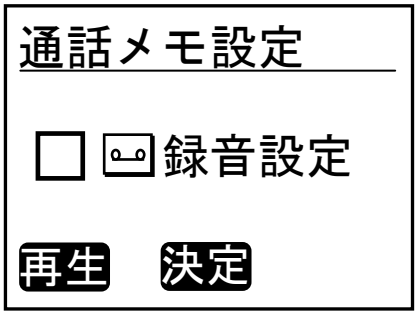
カーソルが移動します。
▼キーで次、▲キーで前項目となります。

「7通話メモ設定」にカーソルを合わせてください。

3．選択キーを押す

右記画面が表示されます。

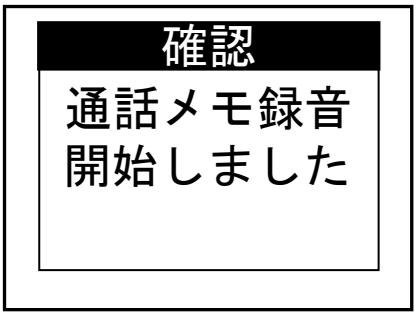
既に設定が行われている場合は、ボックスにチェックマークが付き、画面には「録音解除」と表示されます。



4．決定キーを押す

「プププ」という設定完了音が鳴り、右記画面が表示されます。

その後、画面は待ち受け画面に戻り、新たに設定中である状態を示すテープマークが表示されます。



ワンポイント

・メニューキーを押した後、矢印キーを押さずに7キーを押すと、通話メモ設定画面に直接移行します。
・設定された状態を解除したい場合は、設定中に上記と同様の操作を行ってください。「プププ」という設定完了音が鳴り、「通話メモ録音停止しました」というメッセージが表示されます。その後、待ち受け画面に戻ると、表示中だったテープマークが消去されます。
・再生キーを押すと、通話メモが再生されます。再生に関する詳細は、「5.23 通話メモを再生する」を参照してください。

25	自ゾーンを切り替える	自局が通信を行いたいゾーンを変更します。

１．メニューキーを押す

右記画面が表示されます。

２．矢印キーを押す

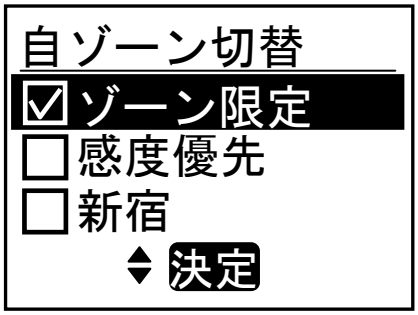
カーソルが移動します。
▼キーで次、▲キーで前項目となります。

「８自ゾーン切替」にカーソルを合わせてください。

３．選択キーを押す

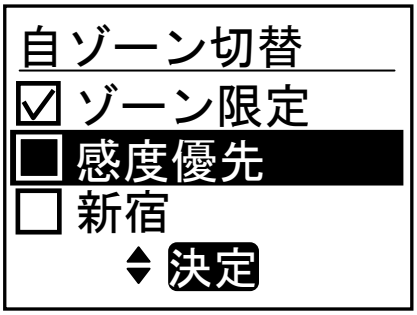
右記画面が表示されます。

ボックスにチェックの入っている内容が現在の自ゾーンの状態です。



４．矢印キーを押す

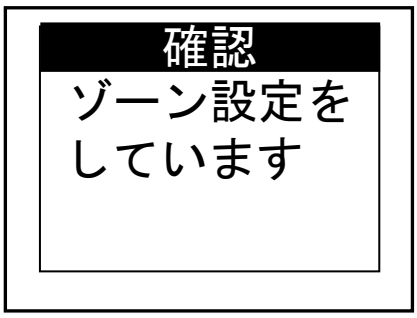
カーソルが移動します。
▼キーで次、▲キーで前項目となります。



ワンポイント
・メニューキーを押した後、矢印キーを押さずに8キーを押すと、自ゾーン切替画面に直接移行します。

※　上記説明文中の「ゾーン限定」及び「感度優先」の機能は将来対応となっています。

５．決定キーを押す



右記画面を表示後、設定の成否が表示されます。成功すると「プププ」という設定完了音が鳴り、自ゾーンを設定したという内容のメッセージが表示されます。

その後、画面は待ち受け画面に戻り、新たな設定での運用を開始します。

ワンポイント

・自ゾーン切替画面には、ゾーンの名称または番号が表示されます。選択対象となるゾーンの登録可能な件数は、最大３００件です。
・具体的なゾーン名称や番号以外にも以下の内容が表示されます。
　①ゾーン限定：あらかじめ決められたゾーンの中で通信を行う
　②感度優先　：その場所で一番電界の強いゾーンを自動選択
・自ゾーン切替に失敗すると、「ピー」という失敗音が鳴り、「ゾーン設定に失敗しました」というメッセージが表示されます。
・自ゾーン切替中は発着信が行えません。
・電源切断の前に電池をはずしてしまうと、設定が元に戻りますのでご注意ください。
・自局での変更ではなく、中継局からの移動局情報の更新等により、運用中にゾーンが自動設定されることがあります。
　その際には、以下のメッセージが表示されます。
　①ゾーンの自動変更時：「ゾーン情報を更新しました」

26	グループを設定する	自局が所属する通話グループを設定します。

１．メニューキーを押す

右記画面が表示されます。

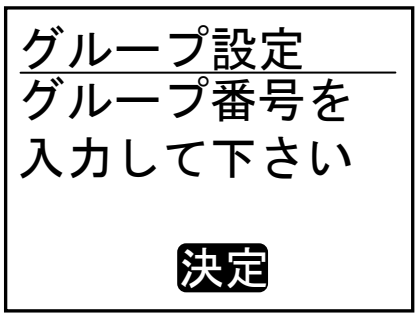
２．矢印キーを押す

カーソルが移動します。
▼キーで次、▲キーで前項目となります。

「＊グループ設定」にカーソルを合わせてください。

３．選択キーを押す

右記画面が表示されます。



４．番号を入力する

設定したいグループ番号をテンキーで入力してください。

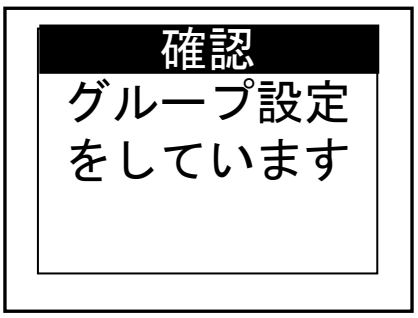
入力範囲は１～９９９です。

ｸﾘｱキーを押すと、入力中の番号の最後の数字が消去されます。更に押し続けると、入力中の番号の全ての数字が消去されます。

ワンポイント

・ﾒﾆｭｰキーを押した後、矢印キーを押さずに＊キーを押すと、グループ設定画面に直接移行します。

５．決定キーを押す



右記画面を表示後、設定の成否が表示されます。成功すると「プププ」という設定完了音が鳴り、「グループ設定をしました」というメッセージが表示されます。

その後、画面は待ち受け画面に戻り、新たな設定での運用を開始します。

ワンポイント

・グループ設定に失敗すると、「ピー」という失敗音が鳴り、「グループ設定失敗しました」というメッセージが表示されます。
・グループ設定を行わないと、待ち受け画面で発信モードを切り替える際に、グループモードが表示されませんのでご注意ください。通信モードに関する詳細は、「5.2 通信モードを切り替えて発信する」を参照してください。
・グループ設定中は発着信が行えません。
・電源切断の前に電池をはずしてしまうと、設定が元に戻りますのでご注意ください。

27	状態を設定する	自局の現在の状態を示す定型文が画面に表示されます。

１．メニューキーを押す

右記画面が表示されます。

２．矢印キーを押す

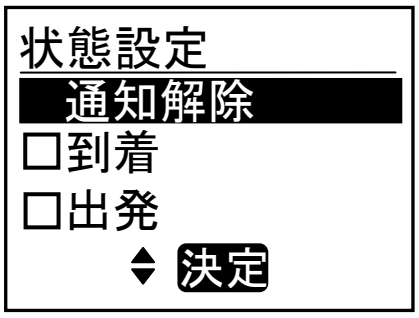
カーソルが移動します。
▼キーで次、▲キーで前項目となります。

「＃状態設定」にカーソルを合わせてください。

３．選択キーを押す

右記画面が表示されます。

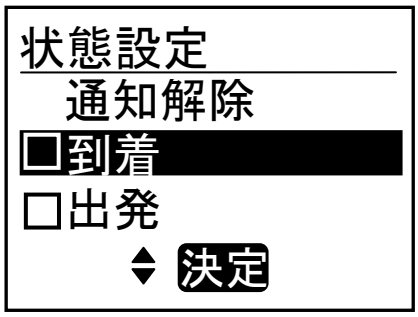
ボックスにチェックの入っている定型文があれば、それが現在設定中の状態内容です。



４．矢印キーを押す

カーソルが移動します。
▼キーで次、▲キーで前項目となります。

新たに設定したい状態の内容にカーソルを合わせてください。



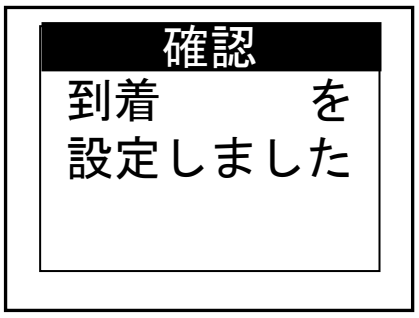
ワンポイント

・メニューキーを押した後、矢印キーを押さずに＃キーを押すと、状態設定画面に直接移行します。

５．決定キーを押す

「プププ」という設定完了音が鳴り、右記画面が表示されます。

その後、画面は待ち受け画面に戻り、設定された内容が表示されます。



ワンポイント

・状態設定画面には、待ち受け画面で表示される定型文が表示されます。選択対象となる定型文の登録可能な件数は、最大２０件です。
・設定された状態を解除したい場合は、一番先頭の「通知解除」を選択し、決定キーを押してください。「プププ」という設定完了音が鳴り、「状態を解除しました」というメッセージが表示されます。その後、待ち受け画面に戻ると、表示中だった状態が消去されます。
・電源切断の前に電池をはずしてしまうと、設定が元に戻りますのでご注意ください。

28	広域ゾーンを設定する	広域接続先のゾーンを設定します。

１．メニューキーを押す

右記画面が表示されます。

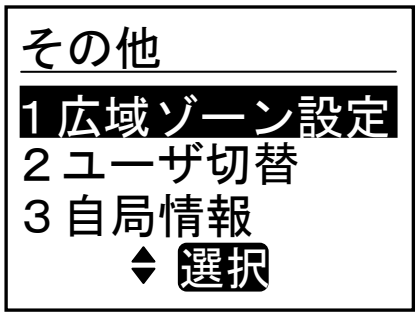
２．矢印キーを押す

カーソルが移動します。
▼キーで次、▲キーで前項目となります。

「０その他」にカーソルを合わせてください。

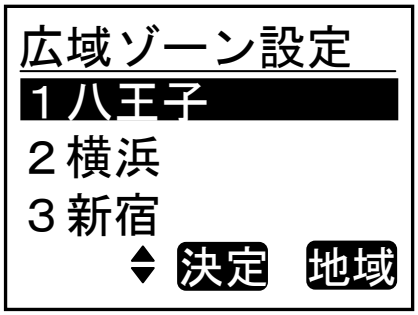
３．選択キーを押す

右記画面が表示されます。



４．選択キーを押す

右記画面が表示されます。



ワンポイント

・メニューキーを押した後、矢印キーを押さずに0キーを押すと、次のメニュー画面に直接移行します。
・選択キーを押した後、再度選択キーを押さずに1キーを押しても、広域ゾーン設定画面に直接移行します。

５．地域キーを押す

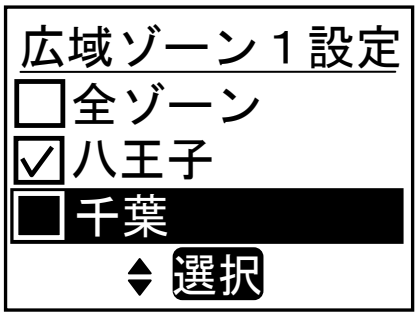
右記画面が表示されます。

ボックスにチェックの入っているゾーンがあれば、それは現在設定中の広域ゾーンです。

６．矢印キーを押す

カーソルが移動します。
▼キーで次、▲キーで前項目となります。

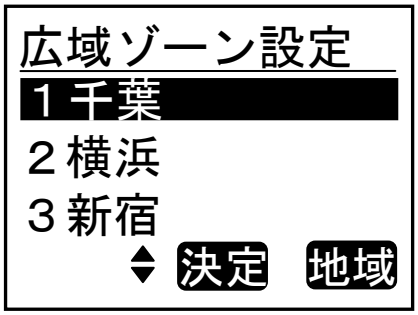
新たに設定したい広域接続先ゾーンにカーソルを合わせてください。



７．選択キーを押す

右記画面が表示されます。

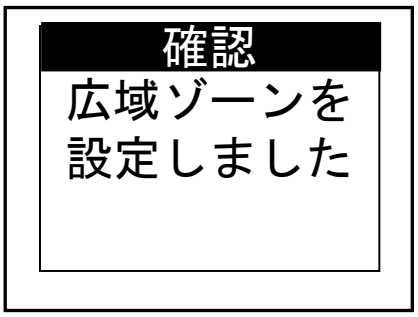
前画面で選択したゾーンが新たに表示されます。



８．決定キーを押す

「プププ」という設定完了音が鳴り、右記画面が表示されます。

その後、画面は待ち受け画面に戻り、新たな設定での運用を開始します。



ワンポイント

・広域ゾーン設定画面には、接続先のゾーン名称または番号が表示されます。選択対象となるゾーンの登録可能な件数は最大３００件です。
・具体的なゾーン名称や番号以外にも以下の内容が表示されます。
　①全ゾーン　　：全ての登録ゾーンを広域接続先に指定
　②ホームゾーン：自局が通常所属しているゾーンを指定
　③全解除　　：現在設定中の広域接続先を全てキャンセル
・電源切断の前に電池をはずしてしまうと、設定が元に戻りますのでご注意ください。
・自局での変更ではなく、中継局からの移動局情報の更新等により、運用中にゾーンが自動設定されることがあります。その際には、以下のメッセージが表示されます。
　①ゾーンの自動変更時：「ゾーン情報を更新しました」

29	ユーザを切り替える	ユーザが複数設定されている場合に、自局が所属するユーザを変更します。

１．メニューキーを押す

右記画面が表示されます。

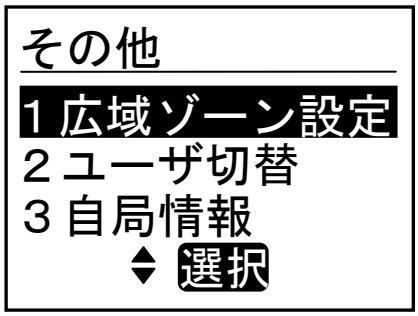
２．矢印キーを押す

カーソルが移動します。
▼キーで次、▲キーで前項目となります。

「０その他」にカーソルを合わせてください。

３．選択キーを押す

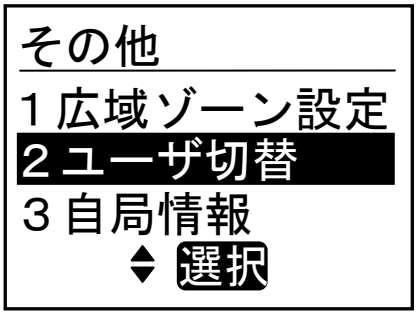
右記画面が表示されます。



４．▼キーを押す

カーソルが移動します。

「２ユーザ切替」にカーソルを合わせてください。



ワンポイント

・メニューキーを押した後、矢印キーを押さずに0キーを押すと、次のメニュー画面に直接移行します。
・選択キーを押した後、▼キーを押さずに 2キーを押しても、ユーザ切替画面に直接移行します。

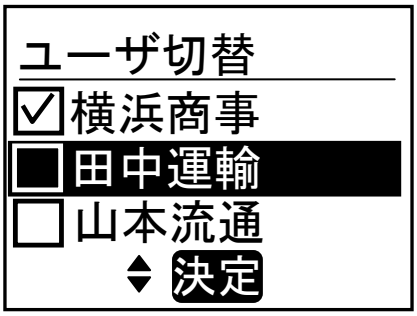
５．選択キーを押す

右記画面が表示されます。

ボックスにチェックの入っているユーザが現在のユーザです。

６．矢印キーを押す

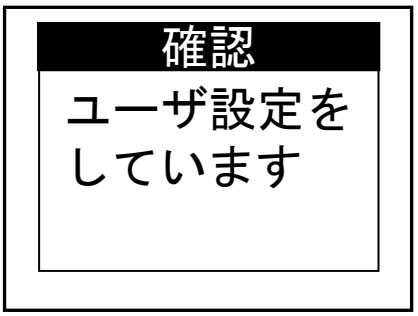
カーソルが移動します。
▼キーで次、▲キーで前項目となります。



７．決定キーを押す

右記画面を表示後、設定の成否が表示されます。成功すると「プププ」という設定完了音が鳴り、「ユーザを設定しました」というメッセージが表示されます。

その後、画面は待ち受け画面に戻り、新たな設定での運用を開始します。



ワンポイント

・ユーザ切替画面には、ユーザの名称または番号が表示されます。選択対象となるユーザの登録可能な件数は、最大２４件です。
・ユーザ切替に失敗すると、「ピー」という失敗音が鳴り、「ユーザ設定に失敗しました」というメッセージが表示されます。
・ユーザ設定中は発着信が行えません。
・電源切断の前に電池をはずしてしまうと、設定が元に戻りますのでご注意ください。
・自局での変更ではなく、中継局からの移動局情報の更新等により、運用中にユーザが自動切替されることがあります。その際には、以下のメッセージが表示されます。
①ユーザの自動変更時　　：「注意　ユーザ情報を更新しました」
②選択中のユーザの抹消時：「注意　ユーザ切替をして下さい」

30	自局情報を確認する	自局に関する詳細内容が表示されます。

１．メニューキーを押す

右記画面が表示されます。

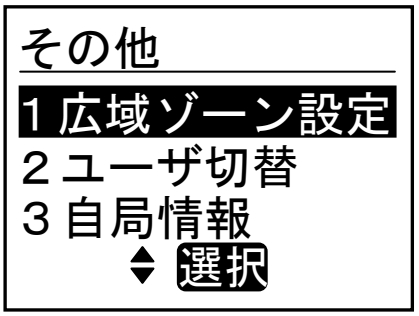
２．矢印キーを押す

カーソルが移動します。
▼キーで次、▲キーで前項目となります。

「０その他」にカーソルを合わせてください。

３．選択キーを押す

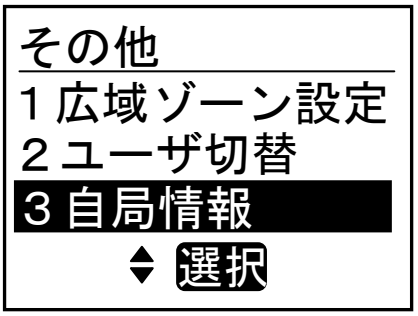
右記画面が表示されます。



４．矢印キーを押す

カーソルが移動します。
▼キーで次、▲キーで前項目となります。

「３自局情報」にカーソルを合わせてください。



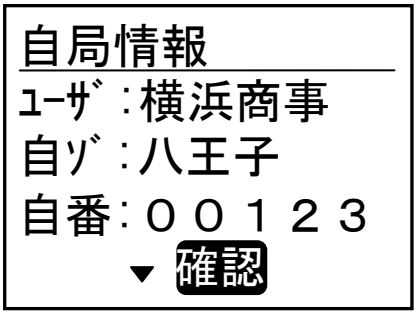
ワンポイント

・メニューキーを押した後、矢印キーを押さずに0キーを押すと、次のメニュー画面に直接移行します。
・選択キーを押した後、矢印キーを押さずに3キーを押すと、自局確認画面に直接移行します。

５．選択キーを押す

右記画面が表示されます。
内容を確認して下さい。

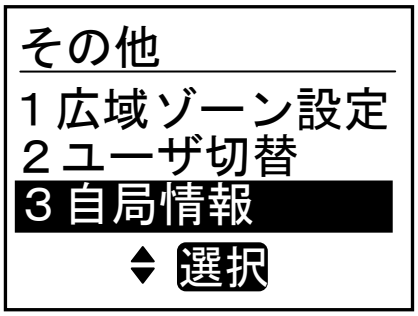
矢印キーを押すと、更に別の自局情報が表示されます。



６．戻るキーを押す

画面は元に戻ります。

戻るキーを押さずに確認キーを押すと、画面は待ち受け画面に戻ります。



ワンポイント

・自局情報で表示される内容は以下の通りです。この中から登録されている内容が順次表示されます。

①ユーザ	：現在のユーザ名称または番号
②自ゾ	：自局の現在位置するゾーン名称または番号
③自番	：自局の個別番号
④着ｸﾞﾙｰﾌﾟ	：自局が所属するグループ番号
⑤移動局機体番号	：自局に付与されている個体別の物理番号
⑥サブ	：サブユーザ時の名称または番号
⑦サ番	：サブユーザ時の個別番号
⑧サブ着ｸﾞﾙｰﾌﾟ	：サブユーザ時の所属グループ番号

31	コントラストを調整する	画面のコントラスト（濃淡）を調整します。

１．メニューキーを押す

右記画面が表示されます。

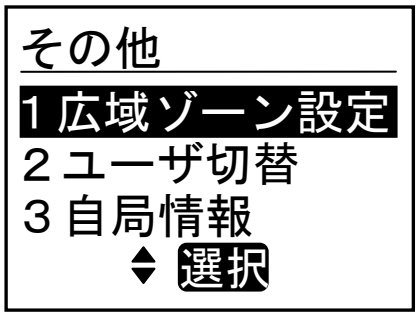
２．矢印キーを押す

カーソルが移動します。
▼キーで次、▲キーで前項目となります。

「０その他」にカーソルを合わせてください。

３．選択キーを押す

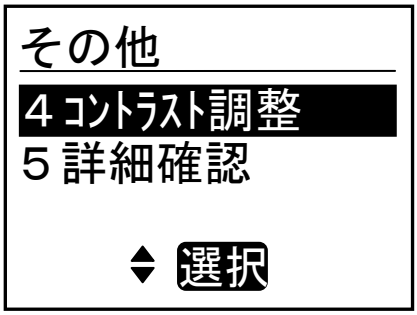
右記画面が表示されます。



４．矢印キーを押す

カーソルが移動します。
▼キーで次、▲キーで前項目となります。

「４コントラスト調整」にカーソルを合わせてください。

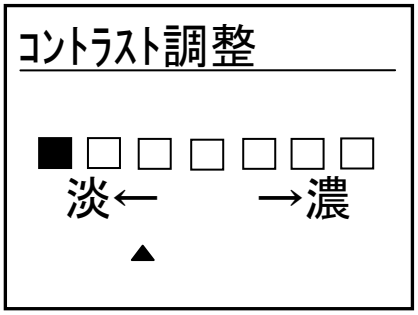


ワンポイント

・メニューキーを押した後、矢印キーを押さずに0キーを押すと、次のメニュー画面に直接移行します。
・選択キーを押した後、矢印キーを押さずに4キーを押すと、コントラスト調整画面に直接移行します。

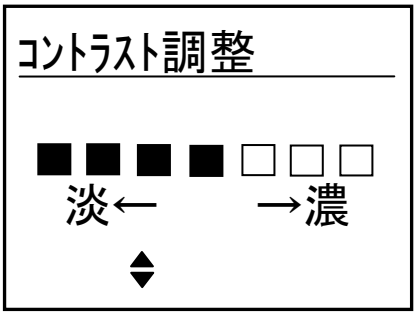
５．選択キーを押す

右記画面が表示されます。



６．矢印キーを押す

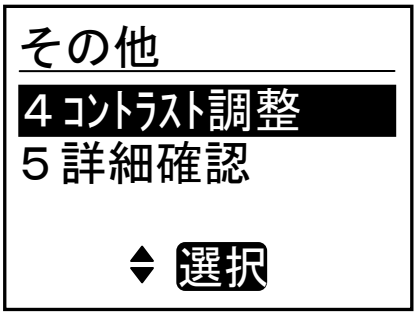
コントラストを２０段階で調整します。
▼キーで淡く、▲キーで濃くなります。



７．戻るキーを押す

画面は元に戻り、新たな設定での運用を開始します。

更に戻るキーを連続で押すと、画面は待ち受け画面に戻ります。



ワンポイント

・電源切断の前に電池をはずしてしまうと、設定が元に戻りますのでご注意ください。

32	局番号帳の詳細情報を確認する	局番号帳に登録された詳細内容が表示されます。

１．局番号帳で番号を選択した後 メニューキーを押す

右記画面が表示されます。

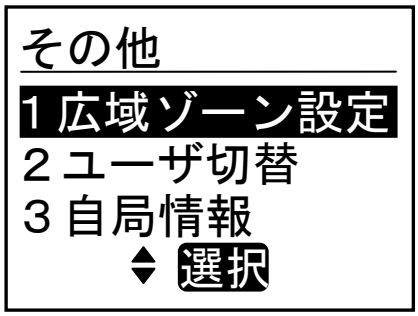
２．矢印キーを押す

カーソルが移動します。
▼キーで次、▲キーで前項目となります。

「０その他」にカーソルを合わせてください。

３．選択キーを押す

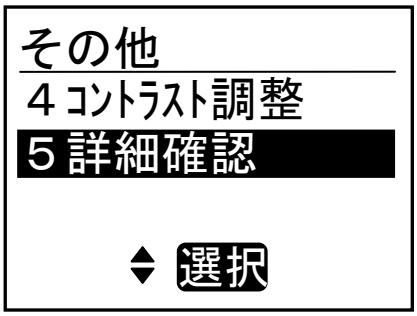
右記画面が表示されます。



４．矢印キーを押す

カーソルが移動します。
▼キーで次、▲キーで前項目となります。

「５詳細確認」にカーソルを合わせてください。



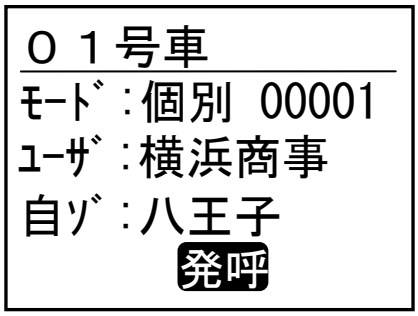
ワンポイント

・局番号帳の操作に関する詳細は、「5.3 局番号帳を利用して発信する」を参照してください。
・メニューキーを押した後、矢印キーを押さずに0キーを押すと、次のメニュー画面に直接移行します。
・選択キーを押した後、矢印キーを押さずに5キーを押すと、詳細確認画面に直接移行します。

５．選択キーを押す

右記画面が表示されます。
内容を確認して下さい。

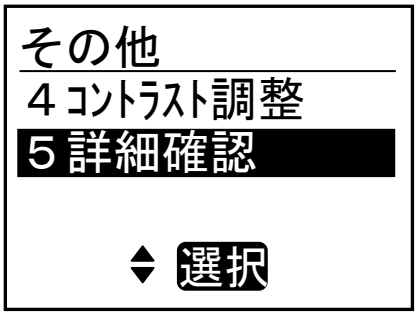
矢印キーを押すと、更に別の詳細情報がある場合に、その内容が表示されます。



６．戻るキーを押す

画面は元に戻ります。

戻るキーを押さずに発呼キーを押すと、表示中の相手局に対して発呼します。



ワンポイント

・詳細情報で表示される内容は以下の通りです。この中から登録されている内容が順次表示されます。
①モード：通信モード＋(グループ/個別/電話の場合)相手局番号
②ユーザ：現在のユーザ名称または番号
③自ゾ　：自局の現在位置するゾーン名称または番号
④接ゾ　：広域接続先のゾーン名称または番号（全て指定されている場合は「全ゾーン」）

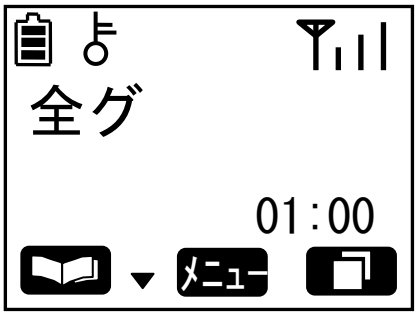
33	キーロックを設定する	キーの操作が無効になるロック設定及び解除を行います。

１．#キーを長押しする

約１秒間押してください。

２．キーロックが設定される

「プププ」という設定完了音が鳴り、画面にはキーマークが点灯します。



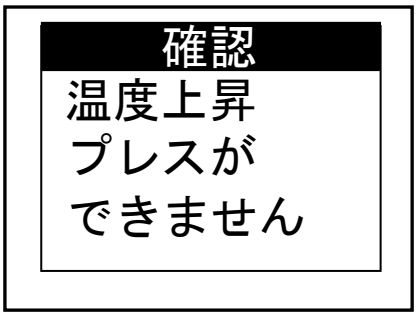
ワンポイント

- キーロックを解除する時は、再度同様の操作を行ってください。キーマークが消灯し、ロックが解除された状態に戻ります。
- キーロック設定中でも、電源切断、ロック解除及び着信時の通話関連のキー操作（プレス、音量調整）は有効となります。
- 電源再投入時は、電源切断前の設定が継続します。
- 電話接続の待ち受け時は、キーロック設定を行えません。

34	警告表示を行う	電池残量や本体の温度に関する警告メッセージが表示されます。

1．「ピポパポピポパポ」または「ピーッ」という警告音が鳴り、警告内容が表示される

画面に警告メッセージが表示されます。



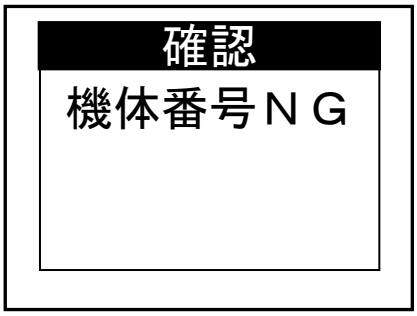
ワンポイント

・警告メッセージに関する詳細は、「８．メッセージ一覧」を参照してください。
・メッセージの表示は、基本的に状況が改善されるまで継続します。(操作時は一時的に消去される場合がある)
・電池残量が無くなった場合、電源が強制的に切断されます。その際は、電池パックを交換し、充電を行ってください。
・携帯機本体の温度が上昇し過ぎた場合、その後の発着動作が出来なくなります。通信が複信または半複信時の送話中にその状態に達すると、強制的に中断されますのでご注意ください。（それ以外の場合は、送話終了後にメッセージが表示され、発着が制限される）

35	障害表示を行う	携帯機になんらかの障害が発生した場合、その内容を表示します。

1．「ピー」という障害発生音が鳴り、障害内容が表示される

画面に障害の理由を示すメッセージが表示されます。



ワンポイント

・障害メッセージに関する詳細は、「８．メッセージ一覧」を参照してください。
・上記のような画面が表示されると、通常はそれ以降の運用が行えなくなります。障害番号と内容をご確認後、必要な処置を実施して、再度電源を入れてください。

6．桁数・件数一覧

携帯機で使用する各項目の桁数及び件数の一覧は以下の通りです。

No.	設定項目	有効範囲	登録数	備考
1	移動局番号 (個別番号)	5 桁(1～16383) 4 桁(1～1023)	――――	
2	ｸﾞﾙｰﾌﾟ番号	3 桁(1～999)	――――	着信ｸﾞﾙｰﾌﾟ番号登録最大 101 件(待ち受け可能なﾕｰｻﾞが複数ある場合は、重複して設定可) 設定により待ち受け中のｸﾞﾙｰﾌﾟ番号 1 件のみを着信ｸﾞﾙｰﾌﾟに変更可(ｸﾞﾙｰﾌﾟ発呼規制時、ｸﾞﾙｰﾌﾟ番号未設定時は、着信ｸﾞﾙｰﾌﾟ無しとなる)
3	電話番号(2nd ﾀﾞｲﾔﾙ)	15 桁以内	10 件	待ち受け中は 15 桁、通信中は 12 桁まで入力可
4	相手局名称	全角 5 文字以内	101 件	ｶﾅ登録の先頭文字が「゛」、「゜」、「-」は登録無効
	よみかな	半角ｶﾀｶﾅ、英数字 4 文字以内		
5	再発呼移動局番号	移動局番号に準拠	発呼：10 件 着呼：10 件	ﾘﾀﾞｲﾔﾙ/ｺｰﾙﾊﾞｯｸ時に表示される番号及び名称
6	再発呼ｸﾞﾙｰﾌﾟ番号	ｸﾞﾙｰﾌﾟ番号に準拠		
7	再発呼電話番号	電話番号に準拠		
8	再発呼相手局名称	相手局名称に準拠		
9	ﾕｰｻﾞ番号	半角 7 または 8 桁	24 件	
	ﾕｰｻﾞ名称	全角 5 文字以内		
10	無線ｿﾞｰﾝ番号	半角 4 桁－3 桁	300 件	
	無線ｿﾞｰﾝ名称	全角 5 文字以内		
11	状態通知内容	全角 5 文字以内	20 件	自局の状態を示す定型文
12	定型文内容	全角 12 文字以内	30 件	送信ﾒｰﾙ作成用の定型ﾒｯｾｰｼﾞ
13	受信ﾒｰﾙ内容	指令局からの受信時：全角 96 文字以内(ﾒｰﾙ内容の前に受付番号を表示：半角 3 桁(1～255)) 移動局からの受信時：24 文字以内	10 件	電話通信中の電話接続用指令局からのﾒｰﾙ受信時は、ﾒｰﾙ内容の前に、送信局の状態を表示
14	送信ﾒｰﾙ内容	全角 24 文字以内	10 件	
15	伝言ﾒﾓ	20～50 秒(10 秒単位)	最大 6 件	設定により、両者合わせて最大 120 秒
	通話ﾒﾓ	20～120 秒(10 秒単位)	1 件	
16	周波数番号	1～399	1 件	

ワンポイント

・伝言メモ及び通話メモの件数は、設定により変更可能です。総時間１２０秒を６件以内、１０秒単位で分割し、件数を設定します。分割された件数のうち、1 件を通話メモとして使用するかを設定し、残りを伝言メモとして使用できます。

7．鳴音一覧

携帯機の鳴音に関する内容は以下の通りです。

No.	鳴音名称	音種	鳴音条件	備考
1	ｷｰ操作音	ﾋﾟｯ	ｷｰの有効入力時	
2	ｷｰ誤操作音	ﾋﾟｰ	ｷｰの無効入力時	
3	設定完了音	ﾌﾟﾌﾟﾌﾟ	設定確定時	
4	全ｸﾞﾙｰﾌﾟ一斉着信音	ﾋﾟｰﾎﾟｰﾋﾟｰﾎﾟｰ	全ｸﾞﾙｰﾌﾟ一斉通信着信時	
5	個別複信着信音	ﾌﾟﾙﾙﾌﾟﾙﾙ･･･（連続）	複信個別、電話通信着信時	
6	個別単信着信音	ﾋﾟｯﾎﾟｰ	単信個別通信着信時	
7	発呼失敗音	ﾌﾟｯﾌﾟｯﾌﾟｯ	発信失敗時(相手局話中時除く)	
8	ﾋﾞｼﾞｰﾄｰﾝ	ﾌﾟｰﾌﾟｰﾌﾟｰﾌﾟｰ	個別・電話発信の相手局話中時	
9	通話指示音	ﾋﾟｯﾋﾟｰ	発信成功時	
10	送信権獲得音	ﾋﾟｯ	ﾌﾟﾚｽﾄｰｸｽｲｯﾁ押下時に自局が送信権を獲得できた場合	
11	送信権獲得失敗音	ﾌﾟｯﾌﾟｯﾌﾟｯ	ﾌﾟﾚｽﾄｰｸｽｲｯﾁ押下時に自局が送信権を獲得できなかった場合	
12	終話予告音	ﾋﾟｯ	通話時間が残り 10 秒時	
13	終話音	ﾌﾟｰ	終話時	
14	ｾﾚｺｰﾙ受信音	ﾋﾟｯﾎﾟｰﾋﾟｯﾎﾟｰﾋﾟｯﾎﾟｰ	自局宛ｾﾚｺｰﾙ受信時	
15	ﾒｰﾙ着信音	ﾋﾟｯﾎﾟｰﾋﾟｯﾎﾟｰﾋﾟｯﾎﾟｰ	ﾒｰﾙ・伝言ﾒﾓ受信時	
16	送信成功音	ﾋﾟｯﾎﾟｰ	ﾒｰﾙ・伝言ﾒﾓ・ｾﾚｺｰﾙ・取消ｾﾚｺｰﾙ送信成功時	
17	送信失敗音	ﾋﾟｰ	ﾒｰﾙ・伝言ﾒﾓ・ｾﾚｺｰﾙ・取消ｾﾚｺｰﾙ送信失敗時	
18	再生終了音	ﾌﾟｯ	再生終了時	
19	録音終了音	ﾌﾟｯ	録音終了時	
20	ｼｽﾃﾑ一斉着信音	ﾋﾟｰﾎﾟｰﾋﾟｰﾎﾟｰ	ｼｽﾃﾑ一斉通信着信時	
21	ｼｽﾃﾑ一斉通知受信音	ﾋﾟｯ	自局が他の通信中にｼｽﾃﾑ一斉通知受信時	
22	予約音	ﾋﾟｰﾎﾟｰﾊﾟｰ	発呼による予約状態移行時	
23	ﾕｰｻﾞ設定催促音	ﾋﾟ――（2 秒）	移動局情報更新時にﾕｰｻﾞ選択ができない場合	
24	温度上昇警告音	ﾋﾟﾎﾟﾊﾟﾎﾟﾋﾟﾎﾟﾊﾟﾎﾟ	本体の温度が上昇した場合	
25	電池残量警告音	ﾋﾟｰ（１秒）	電池残量がごくわずか（電断寸前）	
26	障害発生音	ﾋﾟ――――――（5 秒）	障害発生時	
27	電断音	ﾋﾟｯ	電源切断時	

ワンポイント

・電断音以外の鳴音は、設定によって音量の大小を選択することができます。

8．メッセージ一覧

携帯機で表示されるメッセージの一覧は以下の通りです。

No.	表示タイミング	メッセージ内容			説明
		上段	中段	下段	
1	移動局情報収集	移動局情報を	ダウンロード	しています	移動局情報初期状態／ﾃﾞｰﾀ破損／情報更新時
2	キー押下無効	＃キーを押し	続けると解除	します	ｷｰﾛｯｸ時の無効ｷｰ押下時
3	接続中		□□接続中□		発呼等による接続時
4	発呼／送信不可	ユーザが	異なります		ﾕｰｻﾞが異なり、発呼等が不可時
5	発呼失敗	発呼失敗	相手局圏外		個別発呼時、相手局が圏外にいる
		発呼失敗	相手局話中		個別発呼時、相手局が個別通信中
		発呼失敗	＊＊＊＊＊＊	＊＊＊＊＊＊	上記以外の発呼失敗理由表示時
		発呼失敗			発呼失敗理由表示無し時（圏外時、発信禁止状態(許容外圏内時含む)）
6	送信成功	メールを	送信しました		ﾒｰﾙ送信時
			□□成功□□		ｾﾚｺｰﾙ、取消ｾﾚｺｰﾙ送信時
		伝言メモ	録音中	残＊＊秒	伝言ﾒﾓ録音時
7	送信失敗	○○○○○	送信失敗	メール空なし	ﾒｰﾙ、伝言ﾒﾓ送信時、相手局満杯
		○○○○○	送信失敗	他局呼出中	ｾﾚｺｰﾙ送信時、相手局が既に他局から呼出し中状態
		○○○○○	送信失敗	取消対象なし	取消ｾﾚｺｰﾙ送信時、相手局が既に呼出し解除状態
		○○○○○	送信失敗	機能なし	伝言ﾒﾓ、ｾﾚｺｰﾙ送信時、相手局に該当機能無し
		○○○○○	送信失敗		上記以外のﾒｰﾙ、伝言ﾒﾓ、ｾﾚｺｰﾙ、取消ｾﾚｺｰﾙ送信失敗時
8	ｾﾚｺｰﾙ/伝言ﾒﾓ受信中	○○○○○	呼出しあり		ｾﾚｺｰﾙ受信中
		伝言メモ	録音中	残＊＊秒	伝言ﾒﾓ受信中
9	発着呼履歴	履歴が１件も	ありません		発呼・着呼履歴無し時
		発信履歴を	全件消去	しました	発信履歴全件消去時
		着信履歴を	全件消去	しました	着信履歴全件消去時
10	送受信メール履歴	送信メールは	ありません		送信ﾒｰﾙ無し時
		受信メールは	ありません		受信ﾒｰﾙ及び伝言ﾒﾓ無し時
		送信メールを	１件消去	しました	送信ﾒｰﾙ１件消去時
		受信メールを	１件消去	しました	受信ﾒｰﾙまたは伝言ﾒﾓ１件消去時
		未確認メール	のため消去	できません	未読による受信ﾒｰﾙまたは伝言ﾒﾓ消去不可時
		送信メールを	全件消去	しました	送信ﾒｰﾙ全件消去時
		受信メールを	全件消去	しました	受信ﾒｰﾙ及び伝言ﾒﾓ全件消去時
11	通話メモ録音	通話メモ録音	開始しました		通話ﾒﾓ録音設定時
		通話メモ録音	停止しました		通話ﾒﾓ録音解除時
12	自ゾーン設定	ゾーン設定を	しています		自ｿﾞｰﾝ設定中
		ゾーン限定を	設定しました		自ｿﾞｰﾝ切替成功時（ｿﾞｰﾝ限定）
		感度優先を	設定しました		自ｿﾞｰﾝ切替成功時（感度優先）
		○○○○○を	設定しました		自ｿﾞｰﾝ切替成功時（ｿﾞｰﾝ指定）
		ゾーン設定に	失敗しました		自ｿﾞｰﾝ切替失敗時
13	無線ｿﾞｰﾝﾃｰﾌﾞﾙ更新	ゾーン情報を	更新しました		無線ｿﾞｰﾝﾃｰﾌﾞﾙ更新時
14	グループ設定	グループ設定	をしています		所属ｸﾞﾙｰﾌﾟ設定中
		グループ設定	をしました		所属ｸﾞﾙｰﾌﾟ設定成功時
		グループ設定	失敗しました		所属ｸﾞﾙｰﾌﾟ設定失敗時
15	状態設定	○○○○○を	設定しました		自局状態表示設定時
		状態を	解除しました		自局状態表示解除時
16	広域ゾーン設定	広域ゾーンを	設定しました		広域ｿﾞｰﾝ設定成功時

No.	表示画面	メッセージ内容			説明
		上段	中段	下段	
17	ユーザ切替	ユーザ設定を	しています		ﾕｰｻﾞ切替中
		ユーザを	設定しました		ﾕｰｻﾞ切替成功時
		ユーザ設定に	失敗しました		ﾕｰｻﾞ切替失敗時
18	サブユーザ使用不可	サブユーザ	使用	できません	未設定等によるｻﾌﾞﾕｰｻﾞ使用不可
19	ゾーン切替発生	ゾーン切替が	行われました		ﾕｰｻﾞ切替等によるｿﾞｰﾝ切替発生
20	警告発生	□□注意□□	ユーザ情報を	更新しました	ﾕｰｻﾞ情報自動更新時
		□□注意□□	ユーザ切替を	して下さい	ﾕｰｻﾞ情報切替督促時
		本体温度が	□□上昇	しています	本体温度が８０℃以上に到達
		温度上昇	プレスが	できません	本体温度が９０℃以上に到達
		電池残量なし	□□充電	してください	電池残量がごくわずか
21	障害発生	機体番号ＮＧ			移動局機体番号未実装時
		移動局情報を	抹消しました		移動局情報廃止時
		サービスを	停止しました		取得した移動局情報が 1 件且つそのｻｰﾋﾞｽ種別が無効の場合
		機体が未登録	です		移動局機体番号未登録時
		移動局情報	取得失敗		移動局情報取得失敗時
		□故障発生□	□□０１□□		ﾓﾃﾞﾑDSP ﾀﾞｳﾝﾛｰﾄﾞ失敗時 ﾓﾃﾞﾑDSP DPP ﾀﾞｳﾝﾛｰﾄﾞ失敗時
		□故障発生□	□□０２□□		SUM ﾁｪｯｸｴﾗｰ時
		□故障発生□	□□０３□□		故障 01・02 同時発生時
22	電源切断		□電源オフ□		電源切断直前

ワンポイント

・以下の画面表示時は、温度上昇警告画面は表示されませんのでご注意ください。

①セレコール受信中

②周波数番号設定中

③伝言メモ録音中または受信中

④ユーザ切替中

⑤障害表示中

9．故障かな？と思われた時に

携帯機のご使用の際に何らかの支障が発生した場合は、以下の内容をご確認ください。

こんな時は	ここを確認してください
操作ができない	・電源スイッチは入っていますか ・電池が切れていませんか ・電池がはずれていませんか ・本体温度が限界ではありませんか
圏内にならない	・アンテナはしっかり接続されていますか ・現在いる場所はサービス圏内ですか ・サービス圏内であってもトンネル内やビルの谷間等、つながりにくい場所ではありませんか ・ゾーン設定が正しく行われていますか （複数ゾーン使用時に登録ゾーンは合っていますか）
音が聞こえない	・受話音量が最小レベルになっていませんか
音が途切れる	・受信電波が弱い地域では音が途切れることがあります
受話音量が小さい	・受話音量を切り替えて、聞きやすい音量に調整してください ・発信側で、携帯機を口から離して使用していませんか
受信音声が割れる 歪む	・受話音量を切り替えて、聞きやすい音量に調整してください ・発信側で、携帯機を口に近付け過ぎて使用していませんか
無線機があたたかい	・異常ではありませんが、警告対象です メッセージが表示されたら、しばらくの間、ご使用（特に通話系の操作）を控えてください
発信ができない	・キーロックされていませんか キー操作が無効で、画面上にキーマークが表示されている時はロック状態です ・無線機の温度が上昇し過ぎていませんか ・圏内ですか
通話が中断された	・制限時間を超えて通話していませんか ・無線機の温度が上昇し過ぎていませんか
充電ができない （充電ランプが点灯しない）	・電池パックの温度が上昇し過ぎていませんか いったん充電器からはずし、温度が下がってから再度充電してください ・充電器または電池パックの端子部が汚れていませんか
その他（障害発生）	・画面上に障害番号が表示されるので、その内容を確認後、再度電源を入れてください→何度繰り返しても同様の状況であれば、使用をいったん中止してください

ワンポイント

・上記に関連する内容として、「２．安全上のご注意」の中の「正しくご使用いただくために」をご一読ください。

10．用語解説

無線機・移動局

移動局　車載型無線装置／携帯型無線装置を使用する移動が前提の無線局

管理移動局／指令局　営業所などの固定された場所で使用し、通信の管理を行う無線局

通信モード

個別通信　1 対 1 の通信

グループ通信　同一ユーザ内の無線局を特定のグループに分けて行う通信

全グループ通信　同一ユーザ内の無線局が一斉に行う通信

全グループ一斉通信　同一ユーザ内の全通信を強制終了し、管理移動局が優先的に行う全グループ通信

システム一斉通信　移動無線センターからの通信

通話モード

無線機モード　従来の無線機のように、プレストークによる交互の送受話を行う

電話機モード　携帯電話のように耳にあてて使用し、同時に送受話を行う

通信形態

単信通信　プレストークスイッチを押して片方向ずつ通話を行う通信形態

複信通信　電話機と同様に、プレストークスイッチを押さなくても双方向通話が行える通信形態

半複信通信　発信側は複信、着信側は単信となる通信形態

広域通信　ゾーン(通話範囲)やユーザを切替えて行う広範囲な通信形態

ユーザ

ユーザ　同一のユーザコードを持つ利用局

ユーザ切替　自局が所属しているユーザの切替

グループ

グループ　ユーザ内をいくつかに分けた小団体

所属グループ　自局に着信するグループ番号

ゾーン

ゾーン　1 つの中継局下の通話可能範囲

自ゾーン　現在自局が位置するゾーン

ホームゾーン　自局が通常所属しているゾーン

広域接続　現在自局が位置するゾーン以外のゾーンと接続し、通話やデータ伝送を行う広範囲な通信

ゾーン切替　自ゾーンの切替

その他

伝言メモ　不在の相手局に伝えたい情報を録音する機能

メール　文字メッセージを送信する機能

通話メモ　通話の途中で残しておきたい内容を録音し、必要に応じて再生する機能

セレコール（選択呼出）　特定の相手局のみを呼び出し、呼び出された相手局では画面に呼び出し元の個別番号が表示継続する機能

11. 機器構成

品　　名	品　　番	数　量	備　　考
携帯型無線装置	EK-6170A	1	無線装置本体
ストラップ		1	
取扱説明書		1	

12. 主な仕様

携　　帯　　機	
寸法	５８（W）×３５（D）×１４９（H）mm （つまみ等の突起物は除く）
重量	約３６０ｇ（付属品は除く）
変調方式	π／４シフトＱＰＳＫ
通信方式	２波半複信／２波複信方式
接続方式	時分割多元接続方式（ＴＤＭＡ）
伝送速度	３２ｋｂｐｓ
基本フレーム長	４０ｍｓｅｃ（４多重）
送信出力	２W
性能保証温度	－１０～＋５０℃